

令和8年度版

ひまわり
の
あそび

2



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

「ことばのきまり」の特色と使い方

「ことばのきまり」は、授業や教科書に合わせて、自主的に学習を進めることができるように編集してあります。この本のしくみと使い方を説明しますので、よく読んで、学習を進めていきましょう。

「ことばのきまり」は、およそ次のように構成されています。

※この構成は、学年や単元によって異なりますが、基本的な学習を終えて練習問題に進むことになっています。

① **基本問題**をさらに解き、学習の定着を図ります。
② 基本問題よりやや難しい**発展問題**を解きます。

例文を示して説明します。
必要に応じて、詳しく説明します。

★ アドバイス

それぞれのアドバイスにしたがって、自主的に学習を進めましょう。

2 たしかめ問題

解説を受けて、基本的な問題を解きます。

『ことばのきまり2』を学ぶにあたって
— 優れた言葉の使い手になろう —



コンビニエンスストアで支払いをするとき、「千円からお預かりします」と言われ、違和感を覚えるという話があります。言葉は、生きているものであり、時代や環境によって使い方が変わるものではありませんが、耳障りに感じる人も多いのではないのでしょうか。だれにとっても心地よい、正しく美しい日本語の使い手になれるように文法を学んでいきましょう。

『ことばのきまり2』では、一年生の復習をIでを行い、それをもとに、Ⅶまでの内容を学習します。

Ⅱでは、三つの活用する自立語と五つの活用しない自立語について学習します。

言葉の意味からだけでなく、品詞としてのきまりを知ることにより正確に、感性鋭く、言葉を理解することができます。

例えば、動詞では、「自転車が壊れた。(自動詞)」は壊れた原因が自分にはないことが分かり、それに対して、「自転車を壊した。(他動詞)」では、作用の原因が作用側にあることを表現しています。自動詞か他動詞かを知ること、他の例でも、よりの確に動詞を使うことができるようになるでしょう。

Ⅲでは、用言の活用について。Ⅳでは、語句と語句の関係を示し、気持ちや判断を表す付属語について。Ⅴでは、類義語・対義語・多義語について。Ⅵでは、敬語について。Ⅶでは、漢文のきまりについての学習を進めていきます。

類義語等の知識を深めることで、比較したり、複数の視点で考えたりしながら、実践的に使える言葉の幅が広がることで、敬語は、相手への心遣いを表し、人と人との関係を結ぶ重要な言葉です。学習を通して、言葉を使う際の相手への意識も磨くことになるでしょう。

学習の見通しをもち、実感して分かるまで練習し、言葉の知識を整理して、みなさんが、優れた言葉の使い手になることを願っています。

I 一年生の復習

学習のねらい

★ 一年生で学習した内容を復習する。

一 言葉の単位

文とは

いろいろな出来事や事柄を、伝えたり、尋ねたり、行動を誘いかけたりする言葉のまとまりを**文**といいます。
文の区切りは、文字で書く場合は「。」(句点)で示するのが普通です。話すときは、そこで息を切って、少し休むことで表します。

文節とは

発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまりを**文節**といいます。
このように考えると、文は全て一つ以上の文節からできています。ですから、文節は文を組み立てる単位であるといえます。

次の二つの文を文節に区切ってみましょう。

a 赤い花がきれいに咲く。

「赤い 花が きれいに 咲く。」

b 大きな夕日がゆっくりと沈みます。

「大きな 夕日が ゆっくりと 沈みます。」

意味もわかり、息の切り方も自然なひと区切りが文節です。文節に区切るときは、文中に「ね」「さ」などを入れて意味が通じることがあるかを考えて判断しましょう。

文節どうしの関係とは

- ① 「何が」「誰が」——「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」の関係
↓主・述の関係
- ② ある文節が他の文節を詳しくしている関係
↓修飾・被修飾の関係
- ③ 接続語がつなぐ文と文との関係や、あとに続く文節との関係
↓接続の関係
- ④ 独立語と、それ以外の文節との関係
↓独立の関係

単語とは

文節をさらに細かく分け、それ以上分けると言葉としての意味がなくなるか、言葉としての役割を果たさなくなるというところまで区切った**言葉の最小単位**を**単語**といいます。

冷たい 水が 谷を 流れた。

右の例文は、四つの文節からできています。これを、さらに細かく分けてみましょう。

冷たい 水が 谷を 流れた。

となります。つまり、七つの単語に分かれます。

二 品詞の分類

単語は、文法上の性質によって、十品詞にまとめられます。文法上の性質には、次のようなものがあげられます。

- ・自立語か、付属語か。
- ・文中で語の形が変化する（活用する）か、変化しない（活用しない）か。
- ・文中でどの文の成分（主語・述語・修飾語・接続語・独立語）になるか。
- ・体言（名詞）か、用言（動詞・形容詞・形容動詞）か。※「品詞分類表」参照（巻末）
- ・どんな形や働きをもつか。

自立語と付属語とは

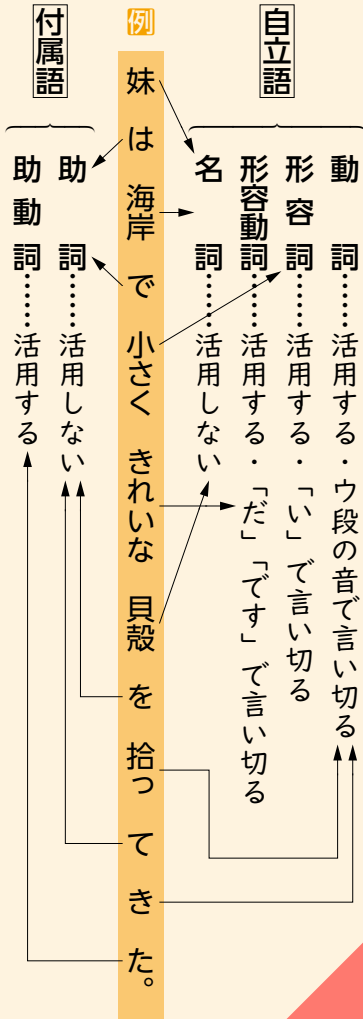
大きな桃が川を流れた。

「大きな」の文節は、一つの単語からできており、意味をもっています。

「桃が」「川を」「流れた」の文節は、「桃」「川」「流れ」の単語に意味があり、「が」「を」「た」は、それらの単語について文節を作っています。

「大きな」のように、単独で文節を作ることのできる単語、また、「桃」「川」「流れ」のように、文節の初めにくる単語を**自立語**といいます。自立語は一文節に必ず一つあります。

「が」「を」「た」のように、単独で文節を作ることができず、常に自立語のあとについて、自立語と一緒に文節を作る単語を**付属語**といいます。



たしかめ問題

1 次の——線部の単語を、A自立語とB付属語に区別し、記号で答えなさい。

- | | |
|-------------|--------------|
| (1) 駅に行く。 | (2) よく考える。 |
| (3) 私のだ。 | (4) 明日のことです。 |
| (5) 考えます。 | (6) この本か。 |
| (7) うん、いいよ。 | (8) 雪のようだ。 |

2 次の文を例にならって単語に分け、自立語か付属語を書きなさい。

例 彼——は——よく——歌——を——歌——っ——て——い——る。

自立語: 彼, 歌, 歌, 自
付属語: は, よく, を, っ, て, 自

- (1) 太陽が沈むと気温が下がる。
- (2) 父はアメリカで早速仕事を始めた。
- (3) 大雨で花壇は水浸しになってしまった。

Ⅱ 自立語

学習の
ねらい

★「自立語」にはどのような種類があるのかを知る。
★「品詞」にはそれぞれどのような性質や働きがあるのかを理解し、それぞれの品詞を見分けられるようにする。

一 活用する自立語

(1) 動詞

・手紙を書く。 朝早く起きる。
・背が伸びる。 洗たく物が乾く。
・猫がいる。 本がある。
例文の「書く」「起きる」「伸びる」「乾く」「いる」「ある」が動詞です。

動詞とは

・自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」段の音になります。
・物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。

いろいろな動詞

① 自動詞

・人が集まる。 気分が変わる。
例文の「集まる」「変わる」のように、それ自身の動作や変化を表し、「(何が)どうなる」かを表す動詞を自動詞といいます。

② 他動詞

・人を集める。 気分を変える。

たしかめ問題

1 次の単語の中から動詞を選び、記号に○をつけなさい。

ア 探す イ 静かだ ウ 勉強する エ そして
オ 笑う カ 今日 キ 泣く ク 浮かぶ
ケ 美しい コ する サ 震える シ 悪い
ス しばらく セ 激しい ソ いる

2 次の動詞について、例にならって自動詞か他動詞かを区別し、自動詞ならそれに対する他動詞を、他動詞なら自動詞を書きなさい。

例	(1)	(2)	(3)	(4)
見る	消える	始める	離す	育つ
他				
見える				

全ての動詞に自動詞と他動詞の対応があるわけではありません。



例文の「集める」「変える」のように、他への動作や変化を表し、「(何を)どうする」かを表す動詞を他動詞といいます。

③ 可能動詞

・この本なら僕にでも読める。

例文の「読める」は、「読むことができる」の意味の動詞です。このように「〜できる」という可能の意味がある動詞を可能動詞といいます。可能動詞は、五段活用 of 動詞をもとにした下一段活用の動詞です。命令形はありません。(動詞の活用についてはP18以降で学習します)

- ・読む(五段)——読める(下一段)
- ・歩く(五段)——歩ける(下一段)

④ 補助動詞(形式動詞)

・咲いている。 ・行ってみる。

例文の「いる」「みる」のように、本来の「いる(存在する)」「見る」などの意味が薄れ、上の言葉に意味を補う動詞を補助動詞(形式動詞)といいます。補助動詞は平仮名書きを原則とします。このほかに、「ある・あげる・もらう・やる・くれる・しまう・おく」などがあります。

⑤ 複合動詞

名詞・動詞・形容詞の語幹(詳しくはP19参照)がついて、一つの動詞を作ったものを複合動詞といいます。

- ・名づける ・勉強 する(名詞+動詞)
- ・結び つく(動詞+動詞)
- ・近 寄る(形容詞の語幹+動詞)

活用する言葉の変化しない部分を語幹といっています。(詳しくはP19参照)



③ 次の文の可能動詞に——線を引きなさい。

(1) 字を上手に書ける。

(2) 彼は英語を話せる。

(3) すずめは空を飛べる。

(4) 昔は二十五メートルほど泳げた。

④ 次の文の補助動詞(形式動詞)に——線を引きなさい。

(1) 友達への手紙を書いている。

(2) 話を聞いてみると、意外に複雑だった。

(3) テストのために、日ごろから勉強しておく。

(4) 分からないことを教えてあげる。

⑤ 次の文の複合動詞に——線を引きなさい。

(1) 山の中で遊び回る。

(2) 細胞の仕組みを研究する学者。

(3) 手紙に宛名を書き忘れる。

(4) みんなでアイデアを出し合う。

(5) 長引く入院に嫌気がさした。

(6) 突然の物音に身構える。

(2) 形容詞

- ・海はとても広かった。
 - ・彼は優しい。
 - ・暗い夜道を歩く。
 - ・砂糖で甘く煮る。
- 例文の「広かつ」「暗い」「優しい」「甘く」が形容詞です。

形容詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「い」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

補助形容詞（形式形容詞）

- a その公園にはブランコがない。
 - b その公園は広くない。
- aの「ない」は「無い」という意味ですが、bの「ない」は「広く」に打ち消しの意味を添えています。形容詞本来の意味を失い、上の文節を助け、意味を補う役割をもった形容詞を補助形容詞（形式形容詞）といいます。「ない」のほかに「ほしい」や「よい」などがあります。

補助形容詞の見分け方

- ・「ない」の上に「は」が入る。
時間がない。↓ ×時間がはない。 (形容詞)
早くない。↓ ○早くはない。 (補助形容詞)
静かでない。↓ ○静かではない。 (補助形容詞)
 - ・「くて」+補助形容詞の形で使われる。
梅干しは体によい。 (形容詞) もっと時間がほしい。 (形容詞)
教科書を見てよい。 (補助形容詞) もっとがんばってほしい。 (補助形容詞)
- ※補助形容詞は、平仮名書きを原則とします。

たしかめ問題

1 次の単語の中から形容詞を選び、記号に○をつけなさい。

- ア 涼しい イ 考える ウ 静かだ エ 暖かい
オ 走る カ 感じる キ 終わり ク 美しく
ケ 戦い コ 細やかな サ 楽しい シ おはよう

2 次の——線部が補助形容詞であるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) ア 願いを聞き入れて、仲間の一人に入れてほしい。
イ のどがかわいたので、水かお茶がほしい。
ウ 水分補給するときは、塩分もほしい。
エ ほしかった本が売り切れてしまった。

- (2) ア 彼女は非の打ちどころのない母親である。
イ 東京に比べるとあまり寒くない。
ウ これぐらいしか弟を喜ばせる方法がなかった。
エ あの手紙は、今はもうない。

- (3) ア 夏休みの課題は計画的にやるのがよい。
イ 体調が悪いのなら、体育の授業を見学してよい。
ウ 困ったときには相談した方がよい。
エ 心に浮かんだことをそのまま詩に表せばよい。

(3) 形容動詞

- ・きれいな教室に入る。
(状態)
 - ・彼はほがらかだ。
(性質)
- 例文の「きれいな」「ほがらかだ」が形容動詞です。

形容動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「だ・です」になります。
名詞に続く形が「な」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

形容動詞の語幹

- ▼語幹だけで言い切ることがあります。(「だ」を省略した形)
 - ・まあ、きれい。　・これは、立派。
- ▼語幹だけを名詞として用いることがあります。
 - ・小さな親切が、感謝された。

- ▼形容詞と形容動詞のどちらの語幹にもなるものがあります。

・あたたかい (形容詞)
・あたたかだ (形容動詞)

形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているのに、区別はほとんどありませんが、活用のしかた(P23・P24参照)に違いがあるので、独立した品詞として考えます。

たしかめ問題

1 次の語句の中から形容動詞を選び、記号に○をつけなさい。

ア 親切だ	イ 中学生だ	ウ 立派だ
エ おそろしく	オ 鮮やかだ	カ 小さな
キ まるで	ク 困難な	ケ 嵐だ
コ ゆっくり	サ のどかな	シ いろいろな

2 次の——線部が形容動詞であるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 彼は穏やかな性格なので、親しまれている。
イ 昨日は雨だったから、今日は涼しい。
ウ 大きな声であいさつをすると気持ちがよい。

形容動詞と名詞の見分け方

形容動詞……「どんなだ」を表す

この町は平和だ(形容動詞の終止形)

名詞……「何だ」を表す

この町に必要なのは平和だ(名詞+助動詞の「だ」)

見分けた言葉の直前に「とても」などを入れると、区別できることが多いです。「とても」が入る場合は形容動詞、入れると不自然になるものは「名詞+だ」です。

二 活用しない自立語

(1) 名詞

- ・山に 登る。
 - ・ヨーロッパに 旅行する。
 - ・時刻は ちょうど 三時です。
 - ・そこでは、不思議な ことが 起きる。
- 例文の「山」「ヨーロッパ」「時刻」「三時」「そこ」「こと」が名詞です。

名詞とは

- ・自立語で、活用がなく、「が・は・も」などをともなう文の主語となることです。
- ・主として、生き物・物・事を表します。

1 名詞の種類

① 普通名詞……ある種類に属する事物を広く表す。

- ・父と 山に 登る。
- ・少年よ 大志を 抱け。
- ・菜の花や 月は 東に 日は 西に

② 代名詞……人・物・場所・方向などを指し示す。

- ・「あそこにいるのは誰だい。」

たしかめ問題

1 次の文の——線部の代名詞が指す言葉を書きなさい。

(1) 田中さん、あなたは歌がうまいのねえ。

(2) 家の前に木があって、弟はそれを見上げていた。

(3) りんご、いちご、バナナ、これらは父の大好物です。

2 次の文から代名詞を見つけ、全て——線を引きなさい。

(1) あなたはどちらの出身ですか。

(2) これはもういらないから、あっちへやってください。

(3) こちらに走ってくるのが、私の弟です。

(4) その角を曲がった公園にいたのはどなたですか。

指示代名詞			人称代名詞			
方向	場所	事物	わたし 僕	私 あなた	自称	対称
			きみ	あなた	こちら	話し相手に近い 近称
方向	場所	事物	彼 彼女	それら	そちら	話し相手に近い 中称
方向	場所	事物	あちら	あそこ	あそこ	遠い 遠称
方向	場所	事物	どなた	だれ	どなた	不定称

- ・「どこ。ここからじゃ、遠くて分からないわ。」
- ・「ほら、こっちへ歩いてくる男の子だよ。」
- ・「ああ、彼は健太君だわ。」

③ **固有名詞**……人名・地名・国名・書名など、特定の物事の名前を表す。

・私は夏目漱石の「坊っちゃん」を四国の旅行中に読んだ。

・日本を代表する古典文学の一つに「源氏物語」がある。

④ **数詞**……物の数量や順序を表す。数字を含む。

・三個で百円のお菓子を買う。

・合唱コンクールで第一位となる。

・一袋が百グラムの砂糖を三つも買ってきた。

・三対二で勝った。

⑤ **形式名詞**……本来の意味が薄れ、常に連体修飾語をつけて使われる。

・ちょうど今着いたところです。

・彼は、来るはずだ。

・彼女の言ったとおりになった。

・ぼやぼやしているうちに、通り過ぎてしまった。

・あなたも行ったほうがいいでしょう。

形式名詞には上にある語の意味を補う働きがあります。

実質的な意味をもたないので、**平仮名**で書きます。

「こと、とき、もの、ところ」などがあります。



③ 次の——線部の名詞の種類をあとの方の中から選び、記号で答えなさい。

(1) 佐藤さんはどこにでもいる少女の一人だった。

(2) 信号機は赤と青と黄色の三色が順番に変わります。

(3) 「万葉集」は日本で最も古い歌集です。

(4) 今、社会のテスト問題を解いていたところです。

(5) まちがいというものは、ないほうがよい。

(6) 彼は今朝三時に家を出発し、富士山に登った。

(7) 豊橋駅から東海道本線の快速に乗って旅に出た。

ア 普通名詞
イ 代名詞
ウ 固有名詞
エ 数詞
オ 形式名詞

2 その他

成り立ちによって次のように種類分けできる普通名詞もあります。

① 転成名詞……他の品詞から変化し、転じてできた名詞

- ・川の 流れが ゆるやかだ。
(動詞 流れる↓流れ)
- ・彼女の 美しさに みとれた。
(形容詞 美しい↓美しさ)
- ・この 穏やかさは 何だ。
(形容動詞 穏やかだ↓穏やかさ)

② 複合名詞……二つ以上の単語が合わさって一語になったもの。

- ・春風 本箱 ガラス窓 夕日
(名詞+名詞)
- ・月見 山登り 夢占い
(名詞+動詞)
- ・歓迎会 聞き手 習い事
(動詞+名詞)
- ・食べ残し 泣き笑い
(動詞+動詞)
- ・浅瀬 大潮 高値 若葉
(形容詞+名詞)
- ・苦笑い 小走り 早咲き
(形容詞+動詞)
- ・白黒 遠浅
(形容詞+形容詞)

③ 接頭語・接尾語がついた名詞……一語として扱う。

- ・ご飯 お茶 御意見 ど根性
(接頭語+名詞)
- ・先生方 母さん 仲間たち
(名詞+接尾語)

4 次の——線を引いた転成名詞のものを「」の中に書きなさい。

(1) あの体操選手は、体の動きが実にしなやかだ。

「」

(2) 彼の体は怒りに震えていた。

「」

(3) 満月の夜の明るさは、想像以上だった。

「」

(4) 私たちは若さと情熱を武器に戦った。

「」

5 次の文から複合名詞を選び、「」の中に書きなさい。

(1) 妹は最近、星占いに凝っている。

「」

(2) テレビで紹介されたかき氷のお店を訪ねてみた。

「」

(3) 母の趣味はスイーツの食べ歩きだ。

「」

(4) 冬休みは家族でスキーに行く予定だ。

「」

6 次の文から接頭語・接尾語がついた名詞を選び、「」の中に書きなさい。

体言

名詞

・体言は自立語で、活用がなく、「が」「は」「も」などをと
もなつて、主語になることができます。
品詞では、名詞がこれに当たります。

(花が)

きれいに咲きました。

(主語)

用言

形容動詞

形容詞

動詞

・用言は自立語で、活用があり、単独で述語・修飾語になる
ことがあります。

・動詞・形容詞・形容動詞の三つを合わせて用言といひます。

彼は、よく笑う。

(述語)

彼は、よく笑う人だ。

(修飾語)

庭の花が、とても美しい。

(述語)

花が庭に美しく咲いた。

(修飾語)

春の海は、穏やかだ。

(述語)

穏やかな海に春を感じる。

(修飾語)

こう	この	こちら	これ	こ
そう	その	そちら	それ	そ
ああ	あの	あちら	あれ	あ
どう	どの	どちら	どれ	ど
副詞	連体詞	名詞	品詞	

指示語・指示する語をまとめて
「こそあど言葉」といい、次のもの
があります。



7 次の名詞のグループから、種類の違うものをつづ
つ見つけ、記号に○をつけなさい。(5)は——線部

- (1) 今日は弟たちと公園で鬼ごっこをして遊ぶ予定だ。
- (2) スポーツの名場面が特集されたテレビ番組を見る。

- (1) アパソコン イノート ウプール エエンジン
- (2) ア優勝 イ一位 ウ大会 エ野球
- (3) ア太平洋 イ日本 ウ大陸 エ北海道
- (4) ア歴史 イ社会 ウ教科書 エ鎌倉時代
- (5) ア願いごと イ書くもの ウ見ること エ言うとおり
- (6) ア父 イ弟 ウ彼 エお母さん

(2) 副詞

- ・牛がのんびり歩いている。
 - ・鈴虫がリーンリーンと鳴く。
 - ・少し待ってください。
 - ・優勝したなんて、まるで夢のようだ。
- 例文の「のんびり」「リーンリーンと」「少し」「まるで」が副詞です。

副詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・様子・状態・程度を表し、主として用言を修飾します。

1 副詞の性質

a 新しい校舎が ついに 完成する。

動詞

b 全校集会は とても なごやかだ。

形容動詞

aの「ついに」という副詞は「完成する」という動詞を修飾しています。また、bの「とても」は「なごやかだ」という形容動詞を修飾しています。

このように用言（動詞・形容詞・形容動詞）を修飾することを連用修飾といいます。

副詞は、主に用言を修飾する連用修飾語になる言葉です。（例外もあります。P13の3を参照）

2 副詞の分類

副詞は、働きの上から次のように分けられます。

ア 状態の副詞（「どのように」という状態を表す）

たしかめ問題

1 次の文から副詞を一つずつ抜き出し、下の「」の中に書きなさい。

- (1) まず失敗することもあるまい。
- (2) 今日もやはり来た。
- (3) 漂流中はさぞつらかったことだろう。
- (4) 大きな石を軽々と持ち上げた。
- (5) 打球がぐんぐん伸びる。

2 次の文から、副詞を一つずつ見つけて——線を引き、「」の中にア「状態」、イ「程度」、ウ「呼応」の分類を記号で答えなさい。

- (1) 私は、ゆったり旅行を楽しんだ。
- (2) おそらく彼はやってくるだろう。
- (3) 駅で私はずいぶん待った。
- (4) 彼は目をきらきらさせながら歩いてきた。
- (5) 彼は、ずっと昔からの友達だ。

3 次の文の——線部の言葉をあとの□の中から選び、書きなさい。

- (1) 明日はたぶん晴れる。
- (2) まさか負けることはある。
- (3) たとえ負け、全力でがんばろう。

- ・ いなかの道はしばらく続いた。
 - ・ 洪水はたちまち家を流した。
 - ・ 子供が笛をプー・プー吹く。
 - ・ 猫がニャーニャーと鳴く。
 - ・ 花びらがひらひら散っている。
- ※擬音語・擬声語・擬態語は、全て状態の副詞に含まれます。

イ 程度の副詞（「どのくらい」という程度を表す）

- ・ 今日はかなり寒い。
- ・ もっと速く走ろう。
- ・ 作家では夏目漱石がいちばん好きだ。

ウ 呼応の副詞（下に決まった言い方がくる）

- ・ まるで海のような湖だ。
- ・ 全然おもしろくない話だ。
- ・ もし願いがかなうなら、空を自由に飛んでみたい。

3 用言以外を修飾する副詞

副詞は用言だけでなく、場所・方向・時間を表す名詞や副詞を修飾することもあります。

a	休日の 学校は とても 静かだ。	（用言を修飾）
b	魚が とても たくさん 釣れた。	（副詞を修飾）
a	救急車を すぐ 呼べ。	（用言を修飾）
b	すぐ 先の アパートへ 引っ越した。	（名詞を修飾）

呼応の副詞は、**陳述の副詞**とも呼びます。
副詞の後ろにいつも決まった言葉を要求します。



形容詞・形容動詞と副詞の見分け方 連体形「―い」「―な」の形を作ってみる。

- ・ 友達と楽しく話す。 （形容詞「楽しい」の連用形）
楽しく ↓ ○ 楽しい ・ × 楽しな 「―い」ができる ⇒ 形容詞
- ・ 友達と愉快地に話す。 （形容動詞「愉快だ」の連用形）
愉快地 ↓ × 愉快い ・ ○ 愉快な 「―な」ができる ⇒ 形容動詞
- ・ 友達とにこにこ話す。 （副詞「にこにこ」）
にこにこ ↓ × にこにこい ・ × にこにこな

どちらでもない ⇒ 副詞

- 4 次の文の——線部の語について、副詞には「ア」、形容詞には「イ」、形容動詞には「ウ」と、それぞれの語の右に記号で答えなさい。
- (1) 海岸を美しくしたいと思い、毎日こつこつと、ごみを拾い続けた。 []
 - (2) にぎやかな街を歩いていると、僕の心もほんわかと温かくなった。 []
 - (3) 乗組員たちは、たちまち小舟に乗り込み、どんどん沖へ出ていった。 []
 - (4) 最近では雨がまったく降ら []。
 - (5) もし雨が降らなかつ [] 遠足へ行く。
- だろう ・ とても ・ ない ・ たら ・ まい

(3) 連体詞

- ・ある日のことです。
- ・いろいろな花が咲いている。
- ・あれがわが家です。
- ・大きな川が流れている。

例文の「ある」「いろんな」「わが」「大きな」が連体詞です。

連体詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・連体修飾語にしかありません。

1 連体詞の性質

あの ^{名詞} 人が 山田さんです。

大きな ^{名詞} 家を 建てる。

二つの文で共通しているのは、どちらも「人」「家」という名詞を修飾していることです。このように体言（名詞）を修飾することを連体修飾といいます。連体詞は、その名のとおりに、すぐ下の体言を修飾する連体修飾語になる言葉です。

連体詞には、次のようなタイプがあります。

〈形〉

- a 「—た（だ）」の形
- b 「—の」の形
- c 「—る」の形

〈語例〉

- たいした とんだ たった
- この その あの どの かの 例の ほんの
- ある さる きたる あらゆる いわゆる

たしかめ問題

1 次の単語の中から連体詞を選び、記号に○をつけなさい。

- ア この イ 明るい ウ 元気な エ いわゆる
 オ あれ カ 大きな キ もっと ク めっきり
 ケ わが コ つまり サ たいした シ あらゆる

2 次の——線部の連体詞が修飾している体言を書きなさい。

(1) この道をずっとまっすぐ行けば、わが母校に着きます。
 ① ②

(2) 話があらぬ方向に進んでしまった。

(3) 大きな木の下で、仲よく遊びましょう。

3 次の文から連体詞を一つずつ抜き出し、下の〆の中に書きなさい。

(1) きたる二十日に体育大会が行われる。

(2) 届かないとは、おかしい話だ。

(3) どの人に行ってもらおうか。

d 「—な」の形
e 「—が」の形

大きな 小さな いろんな おかしな
わが

※例外として「あらぬ」のようなものもあります。

「ただの・る・な・が」
(織田信長)と覚えると
覚えやすいですよ。

2 連体詞と他の品詞との識別

① 「ある」の識別

- ・ある田舎町のできごとだった。
- ・彼は経済力のある人だ。

連体詞
動詞

「ある」には、**連体詞と動詞**があります。識別のしかたは、次のとおりです。

- ① 連体詞……体言を修飾する連体修飾語で、活用しない。
 - ② 動詞……「存在する」意味で使われ、活用する。
- ※動詞の場合は「ない」に置き換えられます。

② 「大きな」と「大きい」の識別

- ・大きな木のある庭。
- ・大きい木のある庭。

連体詞
形容詞

「大きな」と「大きい」は、右の例文のように同じ意味で使われます。しかし、「大きい」は**形容詞**で活用し(P23参照)、「大きな」は**連体詞**で活用しません。同様に、次の言葉についても、連体詞と形容詞の区別をします。

- ・小さな (連体詞) 小さい (形容詞)
- ・おかしな (連体詞) おかしい (形容詞)



- (4) これくらいならたいしたことはない。
- (5) ある朝、私は決心した。

4 次の——線部の中から連体詞を一つ選び、記号で答えなさい。

ア さる十五日、花火大会が行われた。

イ 今朝は、穏やかな日になった。

ウ 私は小さい犬が欲しい。

エ そんなおもしろい話は聞いたことがない。

「穏やかな」の言い切る形は、どうなるでしょう。言い切る形が「—だ」となる言葉は、形容動詞ですよ。



5 次の——線部の単語について、それぞれ品詞名を書きなさい。

(1) その博物館には、たいへん珍しい標本がある。

(2) 将来、あらゆる国へ行ってみたいと思う。

(3) 細かいところまで、ていねいに色をぬろう。

(4) 街角である人に道を尋ねられた。

() ()
() ()

() ()

(1) () (2) ()
(3) () (4) ()
() ()

(4) 接続詞

- ・ 学校へ行き、それから図書館へ行く。
 - ・ 彼女は出かけた。しかし、私は家にいた。
- 例文の「それから」「しかし」が接続詞です。

接続詞とは

- ・ 自立語で、活用がありません。
- ・ それだけで接続語になります。

接続詞は、前後の文や語をつなぐ働きをする単語で、次のような種類があります。

接続詞の種類

種類	働 き	接 続 詞
順接	前に述べたことが、あとに述べることの原因・理由となる。	それで・そこで・すると・したがって・それゆえ・ゆえに・だから
逆接	前に述べたこととは逆になることがあとにくる。	しかし・だが・けれども・ただ・でも・ところが・が・それでも
並列・累加	前に述べたことと並べたり、それにつけ加えたりする。	そして・また・それから・および・なお・さらに・しかも
対比・選択	前に述べたことと比べたり、どちらか選んだりする。	または・あるいは・もしくは・それとも・いっぽう
説明・補足	前に述べたことをまとめたり、補ったりする。	つまり・すなわち・ただし・なぜなら・例えば
転換	前に述べたことと話題を変える。	さて・ところで・では・ときに

たしかめ問題

■ 次の——線部は、どんな種類の接続詞か。あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) マラソンはつらい。だが、走り終わった後の気分は実にいい。

(2) この用紙は、ボールペンまたは鉛筆を使って書きなさい。

(3) 多数決の結果、杉山君の案が選ばれました。それでは、次の議題に移ります。

(4) 昨日、ひなが一羽かえった。そして、今日、また一羽がかえった。

(5) 今日は天気がいい。だから、遠足に行く。

(6) 私は、早く家に帰らなければならない。なぜなら、習いごとがあるからだ。

ア 順接 イ 逆接 ウ 並列・累加
エ 対比・選択 オ 説明・補足 カ 転換

(5) 感動詞

・まあ、きれいな花だこと。
「まあ」のように、心が動いたときに思わず出る言葉があります。このような感動や呼びかけを表す言葉を感動詞と呼びます。

感動詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・主語、述語、修飾語、接続語とならず、単独で独立語になります。

しかし、感動を表す言葉だけが感動詞ではありません。感動詞には、次に示すような種類があります。

応答

はい、こちらは鈴木です。
いや、その道は違うよ。

呼びかけ

おい、こちらへ来い。
もしもし、鈴木さんのお宅ですか。

感動

ああ、すばらしい景色だ。
おや、何か変だぞ。

挨拶

こんにちは、ごきげんいかがですか。
さようなら、お元気で。

挨拶は感動詞です。

感動詞は文の初めに
くることが多いですよ。



たしかめ問題

1 次の文から感動詞を見つけて——線を引きなさい。
また、それがあとの□のどれにあたるかを選び、
記号で答えなさい。

- (1) ほら、見てごらん。きれいな夕焼けだよ。
(2) いいえ、私は鈴木ではありません。
(3) 弟は手を振って叫んだ。「バイバイ。」
(4) ねえ、宿題を終わらせたら遊びに行こうよ。
(5) おや、あなたは佐藤さんではありませんか。

ア 応答 イ 呼びかけ ウ 感動 エ 挨拶

2 次の「」にあてはまる語をあとの□から選
び、記号で答えなさい。

- (1) 「、お弁当を忘れてしまった。
(2) 用意はいいですね。 「、始めましょう。
(3) 「、そこで何をしているの。
(4) 「、ちゃんと受け取りました。

ア はい イ おうい ウ さあ エ あっ

Ⅲ 用言の活用

学習の
ねらい

★それぞれの「用言」はどのように活用するのかわかるように理解する。

一 動詞

・手紙を書く。 朝早く起きる。
・背が伸びる。 洗たく物が乾く。
・猫がいる。 本がある。
例文の「書く」「起きる」「伸びる」「乾く」「いる」「ある」が動詞です。

動詞とは

・自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」段の音になります。
・物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。
動詞と、次に学習する形容詞・形容動詞をあわせて用言といいます。(P11参照)

(1) 動詞の活用

読む

まだその本を読(ま)ない。
僕は本を読(み)ます。
彼も本を読(む)。
よく本を読(む)人である。
本をよく読(め)ば知識が広がる。
たくさん本を読(め)う。
たくさん本を読(も)う。

たしかめ問題

1 次の――線部の動詞を言い切る形に直しなさい。

(1) 机の上に置いたはずの本が見つからない。

(2) 彼に会ったときに、「明日は早く来いよ。」と言われた。

(3) 「よく学び、よく遊べ」が祖父の口癖であった。

2 次に示す単語を活用させて、――の中に適切な言葉を平仮名で書きなさい。ただし、*は命令する形で書きなさい。

(1) 吹く

・夜に口笛を吹く

―― ない。

・私は音楽会でトランペットを吹く

―― ます。

・僕は、毎年お祭りで笛を吹く

――。

・楽器を吹く

―― ときは扉を閉めよう。

・風が吹く

―― ば桶屋おけがもうかる。

*指揮をよく見て吹く

――。

・みんなで一緒にリコーダーを吹く

―― う。

動詞は、右の例文のようにあとに続く言葉や、文中での働きによって、単語の終わりの（ ）部分が「ま・み・む・め・も」のように規則的に変化します。これを活用といいます。活用のかたは動詞によって異なります。

1 語幹と語尾

動詞をいろいろ活用させたとき、常に変化しない部分を語幹といい、変化する部分を活用語尾といいます。

2 活用形

活用によって変化した単語の形を活用形といいます。動詞の活用形は、あとに続く形や言い切る形により、次の六つに分けられます。

「話す（はなす）」の活用

活用形	語幹	活用語尾
未然形	はな	そさ
連用形		し
終止形		す
連体形		す
仮定形		せ
命令形		せ

主な続き方（下に続く言葉）

ない（ぬ）・う・よう・れる・られる・せる・させる

用言・ます・た（だ）・て（で）・ら・たい・ながら・ても

言い切る形・と・から・が・けれど

体言・とき・ので・のに

ば（もし・ば）

命令して言い切る形

例

間に合わないと思っても、走れば間に合うことがあるから走れ。

「間に合う」の未然形

「走る」の仮定形

「ある」の終止形

「思う」の連用形

「間に合う」の連体形

「走る」の命令形

(2) 起きる

・時間になっても弟はまだ起 [] ない。

・母はいつも早く起 [] ます。

・僕は六時に起 [] 。

・早く起 [] ときは調子がいい。

・早く起 [] ば、余裕がもてる。

*早く起 [] 。

3 次の——線部の中から未然形の動詞を選び、記号で答えなさい。

(1) 話す

ア 久しぶりに会ったいとこと話す。

イ 落ち着いて話せば、伝わるよ。

ウ 僕は誰にも秘密を話さない。

エ 君たちに大事なことを話します。

(2) 書く

ア 母への感謝の手紙を書いた。

イ 読みやすい字で書こう。

ウ 原稿用紙五枚を書く。

エ 手帳に書けば、忘れない。

4 次の——線部の動詞の活用形を [] に書きなさい。

(1) 新聞を見れば、試合の結果がわかる。

(2) 犬を飼うことを、父が許してくれた。

(3) まだ見ぬわが子への愛を詩につづる。

(4) 強風でも、親鳥はえさを求めて飛ぶ。

(2) 動詞の活用の種類

日本語のかなを、その音をもとにして並べた図を五十音図と呼びます。この図の縦の並びを行(ぎょう)といい、横の並びを段(だん)といいます。

動詞の活用のかたは、この五十音図をもとに、次の五種類に分けられます。

1 五段活用(五段)

五十音図のア・イ・ウ・エ・オの五つの段に沿って変化します。例えば、「吹く」は(カキクケコ)で、活用するので五段活用といえます。左の図のように、活用形をまとめて一つの表にしたものを活用表といえます。

行	ア	イ	ウ	エ	オ
ナ行	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
タ行	タ	チ	ツ	テ	ト
サ行	サ	シ	ス	セ	ソ
カ行	カ	キ	ク	ケ	コ
ア行	ア	イ	ウ	エ	オ

五段	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
吹く	吹く	吹く	吹かない・ぬ	吹きます	吹く。	吹くとき	吹けば	吹け
ふ	ふ	ふ	ふない・ぬ	ふます	ふ。	ふとき	ふば	ふけ
こ	こ	こ	こない・ぬ	こます	こ。	ことき	こば	こけ
い	い	い	いらない・ぬ	います	い。	いとき	いば	いけ
く	く	く	くない・ぬ	くます	く。	くとき	くば	くけ
け	け	け	けらない・ぬ	けます	け。	けとき	けば	けけ
け	け	け	けらない・ぬ	けます	け。	けとき	けば	けけ

五段活用だけにある音便(おんびん)

五段活用(サ行以外)の連用形は、「た(だ)・て(で)・たり(だり)」がつくとき、発音しやすいように音が変化する場合があります。これを音便といえます。

・イ音便……………「く・ぐ」などで終わる動詞 ※例外もあります

・促音便(「っ」)……………「う・つ・る」などで終わる動詞

・撥音便(「ん」)……………「む・ぬ・ぶ」などで終わる動詞

例 咲きて↓咲いて
例 乗りて↓乗って
例 遊びて↓遊んで

たしかめ問題

1 次の五段活用動詞の活用表を上表にならって平仮名で書いて完成させなさい。

基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
従う	従う	従わない・ぬ	従います	従う。	従うとき	従えば	従え
走る	走る	走らない・ぬ	走ります	走る。	走るとき	走れば	走れ
読む	読む	読まない・ぬ	読みます	読む。	読むとき	読めば	読め
飛ぶ	飛ぶ	飛べない・ぬ	飛びます	飛ぶ。	飛ぶとき	飛べば	飛べ
置く	置く	置かない・ぬ	置きます	置く。	置くとき	置けば	置け

2 次の線部の文節を音便に注意して正しく直しなさい。

(1) 知らせを聞きて、私はすっかりあわてた。

(2) 決勝戦を勝ちて、優勝したいものだ。

(3) 封筒から手紙を出して、すぐに読みた。

2 上二段活用(上二段)

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ上にある「イ段」の音で活用します。

3 下二段活用(下二段)

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ下にある「エ段」の音で活用します。

4 力行変格活用(力変)

他には類のない特別な活用をするので、力行変格活用(力変)といえます。力変の動詞は「来る」の一語だけです。「来る」は、語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

5 サ行変格活用(サ変)

サ行変格活用も、もともと「する」の一語だけです。漢語や外来語に「する」が複合した場合(複合動詞)も、サ変の動詞になります。

漢語+「する」……勉強する・運動する
外来語+「する」……スケッチする・メモする

サ変の動詞は、語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

活用の種類	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
上二段	信じる	しん	じ	じ	じる	じる	じれ	じろ
下二段	考える	かんが	え	え	える	える	えれ	えろ
力行変格	来る	こ	き	くる	くる	くれ	こい	こ
サ行変格	する	○	し	する	する	すれ	しろ	せよ

※サ変の未然形「さ」には、「れる」「せる」が続きます。

3 次の動詞の活用表を上表にならって平仮名で書いて完成させなさい。

活用の種類	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
上二段	生きる							
上二段	見る	(み)						
下二段	助ける							
下二段	寝る	(ね)						
力行変格	来る	○						
サ行変格	する	○						

※「見る」や「寝る」のように、上二段・下二段の動詞には、語幹と活用語尾が区別できないものもあります。

活用の種類の見分け方

① 力行変格活用

……「来る」の一語だけ。

② サ行変格活用

……「する」と「くする」

③ 動詞の未然形に接続する

「ない」をつけたときの、活用語尾で見分けます。そのすぐ前の音に目を向けます。

五段	上二段	下二段
ない	ない	ない
か	き	く
書	起	受
ア	イ	エ
オ	ウ	エ
コ	ケ	コ



動詞の活用の種類の見分け方(動画)



練習問題に取り組もう

基本問題

1 次の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

(五段・上一段・下一段・力変・サ変の略称でよい)

(1) 兄は希望の高校へ進学する。

(2) ピッチャーが投げるカーブを打ち込んで勝った。

(3) 背広を着た男性が向こうから来る。

(4) そのくらの本は、読もうと思えば読める。

2 次の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

(1) 野山を歩けば、気持ちもさわやかになる。

(2) 太陽の光を浴びて、暖かく感じた。

(3) 逃げないで、現実をしっかりと見つめろ。

(4) 勉強するときはテレビは消すと決めよ。



活用の種類は、P21の「活用の種類の見分け方」を見て考えましょう。
活用形は、P19の表を参考に、下に続く言葉から考えましょう。

発展問題

1 次の文章中から動詞を八つ見つけ、——線を引きなさい。また、——線の終止形を書きなさい。

「努力すれば何でもできる。」兄はいつもこう言って私を励ましてくれた。すぐにあきらめてしまう私は、兄の言葉に何度も勇気づけられた。

2 次の——線部の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 吹く風に秋の訪れが感じられる。

(2) 「早く来い。」と、父が言った。

(3) もっと勉強すれば、成績は上がる。

(4) 朝ごはんを食べないで学校に来た。

キ	オ	ウ	ア
活用	活用	活用	活用
形	形	形	形
ク	カ	エ	イ

活用	活用	活用	活用
形	形	形	形



動詞の活用の種類・活用形
練習問題

二 形容詞・形容動詞

(1) 形容詞・形容動詞の活用

形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているのに、**区別はほとんどありません**。しかし、活用のしかたに違いがあるので、独立した品詞として考えます。

1 形容詞

- ・海はとても**広**かった。
 - ・彼は**優**しい。
 - ・暗い夜道を歩く。
 - ・砂糖で**甘**く煮る。
- 例文の「広かつ」「暗い」「優しい」「甘く」が形容詞です。

形容詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「い」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で**述語**や**修飾語**になります。

① 形容詞の活用

基本形	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	主な 語幹	続 き方						
明るい	明る	う	かる	かつ う	い	い	けれ	○
		ない た ない が い ます				とき で	ば	!

※形容詞の活用の種類……一種類だけで、命令形はありません。

② 形容詞の音便

- ・今年の夏は暑うございます。
- ・この料理は、おいしくうございます。
- ・「暑う」のように、形容詞の連用形に「ございます・ぞんじます」が続くとき、**連用形語尾の「く」が「う」に変わる**ことがあります。これを**ウ音便**といいます。
- ・「おいしゅう」のように、語幹が変化することもあります。

たしかめ問題

1 次の単語の中から形容詞を選び、記号に○をつけなさい。

- | | | |
|--------|-------|---------|
| ア おいしく | イ 細かい | ウ おかしな |
| エ 小さな | オ 争い | カ ほしい |
| キ よい | ク 細かな | ケ あたたかい |

2 次の——線部の形容詞の活用形を答えなさい。

(1) 自分は新しい可能性を見つけたい。

(2) 君がいなくなると、さぞ寂しかりう。

(3) 忘れ物に気づいたときには、もう遅かった。

(4) 試合に負けて悔しければ、より練習に励もう。

(5) 君の言葉は何よりも頼もしい。

3 次の文章から形容詞を四つ見つけて——線を引きなさい。

中学校生活を振り返ると、楽しかったこと、つらかったことが入り混じってよみがえってくる。
学習面や友人関係に悩むことも多くあった。しかし、仲間とともに過ごした日々は、美しい思い出として、いつまでも私の心に残り続けるだろう。

形 形 形 形 形

2 形容動詞

- ・きれいな教室に入る。
(状態)
- ・彼はほがらかだ。
(性質)

例文の「きれいな」「ほがらかだ」が形容動詞です。

形容動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「だ・です」になります。
名詞に続く形が「な」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

① 形容動詞の活用

基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
静かだ	静か	だろ	だっ	だ	な	なら	○
静かです	静か	でしょ	でし	です	(です)	○	○

※形容動詞の活用……一種類だけ(丁寧な言い方では「です」で終わる)で、命令形はありません。

② 形容動詞の語幹の用法

▼語幹だけで言い切ることがあります。「だ」を省略した形

- ・まあ、きれい。
・これは、立派。

▼語幹だけを名詞として用いることがあります。

- ・小さな親切が、感謝された。

▼形容詞と形容動詞のどちらの語幹にもなるものがあります。

- ・あたたか
だ (形容動詞)
- ・い
だ (形容詞)

4 次の——線部の形容動詞の活用形を書きなさい。

(1) どうしても必要ならば、申し出てほしい。

形 形

(2) なんてきれいな夕日だろう。

(3) 与えられた仕事をそろそろにはいけない。

(4) 洗い立てのシャツは柔らかで、気持ちがいい。

(5) 急に色が変われば不思議だろう。

(6) この皮の表面はとてもなめらかだ。

形 形 形

形 形 形

5 次の文章から形容動詞を四つ見つけて——線を引きなさい。

夏休みは楽しいことが多い。太陽の下、暑さなんか忘れて公園へ行くと、そこには元気で陽気な仲間がいる。顔を赤くしながら鬼ごっこをしたり、木陰でにぎやかに語り合ったりする時間がたまらなくうれしかった。大人になっても、このような時間は必要だろう。





総合問題

1 次の文から名詞を見つけて——線を引きなさい。また、の中からあてはまるものを選び、それぞれの記号を——線の右に書きなさい。

A 普通名詞
B 代名詞
C 固有名詞
D 数詞
E 形式名詞

(1) 雪が解け、ようやく北海道にも春がやってきた。

(2) ダニエルが言ったとおりでした。

(3) 新しい卵を十箱、岡崎のスーパーマーケットに届けた。

(4) どこへ行ったって、地平線など見ることはできない。

(5) それは彼女のおばあさんから聞いた話です。

(6) この本は、だれのですか。

2 次の各組の文で——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の家には、小さな庭がある。
イ 彼の家には、小さい庭がある。

(2) ア ある朝、珍しい色の花が咲いた。
イ 机の上には、一枚の葉書が置いてある。

(3) ア こちらはさる高貴なお方にさしあげる品物だ。
イ 私は「去る者は追わず」と思っている。

(4) ア あの、今何時かわかりますか。
イ あの場合、もう一度見てみたい。

3 次の「」にあてはまる接続詞をあと「」から選び、記号で答えなさい。

(1) 東京に行った。
「」、横浜にも行った。
(2) 雨が降ってきた。
「」、大会は続けられた。
(3) 涼しくなったね。
「」、今日は何の用ですか。
(4) 剣道を続けるか。
「」、野球をやるか。

ア だから
イ しかし
ウ また
エ それとも
オ つまり
カ ところで

4 次の文章中から形容詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) 私は中学生のころ、南極の写真を見て、大きくなったたら南極の自然を研究したいと思った。たとえそれまでの道のりがどんなに遠かろうと、その夢を追い続けたいと考えている。

(2) 怖かったね。もっと明るければ安心だけど、真っ暗な夜道は危ないよね。

(3) 彼のおじさんは、先日、湖に近い森に入り、太くて丈夫な杉の木を切りました。

(3)	(2)	(1)
形	形	形
形	形	形

5 次の各組の文で——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の証言にはおかしな点がいくつかある。
イ 彼の証言にはおかしな点がいくつかある。

(2) ア あの海は、昔とても美しかった。
イ あの海は、昔とてもきれいだった。

6 次の文から形容動詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) ロマンチックな映画だったが、ストーリーは複雑だった。

(2) 朝からさわやかなあいさつをして、元気に登校しましょう。

(3) 彼らが真剣ならば、予選通過は簡単だろう。

(3)	(2)	(1)
形	形	形
形	形	形

7 次の各組の文で——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の表情が徐々に柔らかくなってきた。
イ 彼の表情が徐々に柔らかくなってきた。

(2) ア 彼にとって大切な仕事である。
イ 彼にとって大きな仕事である。

(3) ア 電車は駅をすでに出たあとだった。
イ 電車は駅を静かに出たあとだった。

IV 付属語

学習のねらい

★ 助動詞・助詞はどのように分類され、それぞれのよつな働きをするのかを理解する。

一 付属語の種類

(1) 助動詞

- 例 私 は 詩 を 書く。
- (1) 私 は 詩 を 書 かない。
- (2) 私 は 詩 を 書 きます。
- (3) 私 は 詩 を 書 きたい。
- (4) 私 は 詩 を 書 いた。
- 「ない」を加えて意味を否定する。
- 「ます」を加えて丁寧な表現にする。
- 「たい」を加えて希望を表す。
- 「た」を加えて過去のことを表す。

例のように、「ない」「ます」「たい」「た」などの単語をつけ加えることによって、「書く」にいろいろな意味を添えることができます。これらの単語を助動詞といいます。

助動詞とは

- ・ 付属語で、活用があります。
- ・ 用言・体言や他の助動詞などについて、意味をつけ加えたり、話し手・書き手の気持ちや判断を表したりします。

- (1) 彼も本を読みたかろう。(未然形)
- (2) 彼は本を読みたかった。(連用形)
- (3) 私は本を読みたくなる。(連用形)
- (4) 私は本を読みたい。(終止形)
- (5) これは私の読みたい本だ。(連体形)
- (6) 本が読みたければ図書館へ行け。(仮定形)
- このように、「たい」という助動詞は、形容詞とよく似た活用をします。ほかにも動詞や形容動詞に似た活用をしたり、独自の活用をしたりする助動詞があります。

たしかめ問題

1 次の動詞を例にならって平仮名で空らんに書きなさい。

例	読む	せる・させる (使役)	れる・られる (受け身・可能・尊敬・自発)	う・よう (意志)
(1)	行く	よませる	よまれる	よもう
(2)	着る			
(3)	食べる			
(4)	する			
(5)	来る			

2 次の文の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 私の家のねこが、急に姿を消した。
- (2) 父は、急用ができて東京に出かけるらしい。
- (3) 日本には、外国からの輸入品がたくさんあります。
- (4) 母は、絶対に飛行機に乗らないと言っているそうだ。

勧誘 意志 推量		否定 (打ち消し)		希望		使役 (しえき)		自発 尊敬 可能 受け身	意味
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	基本形
投げよう	行こう	知らぬ	知らない	見たがる	覚えたい	やめさせる	働かせる	聞かれる	用例
○	○	○	なかる	たがら	たかろ	させ	せ	られ	未然形
○	○	ず	なかつ	たがり	たかつ	させ	せ	られ	連用形
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	終止形
(よう)	(う)	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	連体形
○	○	ね	なけれ	たがれ	たけれ	させれ	せれ	られれ	仮定形
○	○	○	○	○	○	させよ	せよ	られよ	命令形

助動詞は、それぞれこの活用表のように活用します。参考にしましょう。



断定	否定の推量 (否定の意)	伝聞 (でんかん)	推定 (推定)	推定 (推定)	推定 (推定)	推定 (推定)	丁寧	想起 存続 完了 過去	意味
です	だ	まい	そうです	そうです	そうです	そうです	ます	ただ	基本形
学校です	学校だ	行くまい	降るそうです	降りそうです	降るそうです	降りそうです	始まります	書いた	用例
でしょ	だろ	○	○	○	○	○	ましよ	(たろ)	未然形
でし	でだ	○	○	○	○	○	まし	○	連用形
です	だ	まい	そうです	そうです	そうです	そうです	ます	た(だ)	終止形
(です)	(な)	(まい)	(そうです)	(そうです)	(そうです)	(そうです)	ます	た(だ)	連体形
○	なら	○	○	○	○	○	ますれ	(たら)	仮定形
○	○	○	○	○	○	○	(まし)	○	命令形

① れる・られる

受け身、可能、尊敬、自発の助動詞

- ・友達に慕われる。
- ・友達から教えられる。

- ・すぐに覚えられる。

- ・先生が本を読まれる。
- ・おじさんが来られる。

- ・故郷が思い出される。
- ・父のことが案じられる。

受け身（「～に～される」の意味を表す）

可能（「～することができ」の意味を表す）

尊敬（「～なさる」という、他を敬う意味を表す）

自発（「自然に～する」の意味を表す）

最近増えている話し方に、

「すぐに覚えれるよ。」「君にも見れるよ。」

があります。これらをいわゆる「ら抜き言葉」といいます。本来は「覚えられる」「見られる」です。

五段活用とサ行変格活用は「れる」、その他の活用は「られる」が続きます。

② せる・させる

使役（人に命じてさせる意味）の助動詞

- ・本を読ませる。
- ・すぐに彼を行かせます。

- ・もう少し詳しく調べさせる。
- ・明日は彼女にも来させよう。

たしかめ問題

1 次の——線部の「れる」「られる」は、A 受け身 B 可能 C 尊敬 D 自発のどれにあたるか、記号で答えなさい。

- (1) 一時間ぐらいでふもとまで下りられる。
- (2) 写真を見ると母のことが案じられる。
- (3) ぼんやりしていて、人に追い越される。
- (4) 社長はときどき目をつぶって考えられる。
- (5) 先生から頼りになるとほめられた。
- (6) 思い出されるのは、あの山の風景だ。
- (7) 友に支えられて、ここまでやってきた。

2 次の——線部を助動詞を使って、使役の意味になるように書き直しなさい。

- (1) すぐにやめるように指示をした。
- (2) これを見るとよい。
- (3) 三時に来れば間に合う。
- (4) 熱があるので薬を飲む。
- (5) 今から勉強します。

「れる」「られる」と同じように、五段活用とサ行変格活用は「せる」、その他の活用の種類には「させる」が続きます。「見せる」「着せる」などはそれだけで一つの動詞です。

③ たい・たがる 希望の助動詞

- ・私はカレーライスが食べたい。
(自分が希望する意味を表す)
- ・弟はしきりに帰りたいがる。
(第三者が希望する意味を表す)

④ ない・ぬ(ん) 否定(打ち消し)の助動詞

- ・もう一か月も雨が降らない。
- ・雨の降らぬ月はない。

否定の助動詞「ない」は、「ぬ」に置き換えられます。
形容詞の「ない」と区別しましょう。

「ない」の識別

- ① 今日は宿題がない。(形容詞)
- ② 今日は宿題が多く(は)ない。(補助形容詞)
- ③ 今日の宿題はわからない。(助動詞)

⑤ う・よう 推量、意志、勧誘の助動詞

- ・彼も行きたいだろう。
(推量の意味を表す)
- ・早く起きようと思う。
(意志の意味を表す)
- ・さあ、外に出かけよう。
(勧誘……誘いかける意味を表す)



3 次の文の「」に希望の助動詞を入れ、文を完成させなさい。

- (1) こんなに走り続けたら、水が飲み「」なる。
- (2) テレビゲームで遊び「」が、勉強しよう。
- (3) 外国人が写真を撮り「」ている。
- (4) うちのポチがごはんを食べ「」ないの。

4 次の文の否定の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 大切なことは言わなければわからない。
- (2) 練習せずに勝てるわけがない。
- (3) 約束は守らねばならない。
- (4) 知らぬが仏とはよく言ったものだ。
- (5) 中学生になると外で遊ばなくなる。
- (6) 山頂の宿で流れ星を見なかったことはない。

5 次の——線部の助動詞の意味を書きなさい。

- (1) 君もいっしょに遊ぼう。
- (2) 宿題を終わらせてからテレビを見ようと思う。
- (3) 練習はこれからますます厳しくなるだろう。

⑥ た(だ)

過去、完了、存続、想起の助動詞

- ・昨日まで元気だったのに。
- ・いま、着いたばかりである。
- ・こわれた筆箱がある。
- ・これは君のだったね。

(過去 過ぎ去った動作や現象を表す)
(完了 たった今動作が完結したことを表す)
(存続 「〜ている」「〜である」、その状態が今も
続いているという意味を表す)
(想起 過去にあったことを思い起こすという意味
を表す)

⑦ ます

丁寧の助動詞

- ・必ずお知らせします。

「ます」の命令形「ませ」

「ませ」は、「いらっしゃる・
おっしゃる・くださる・なさる」
など、敬意を表す語につきます。
例 いらっしゃいませ。

⑧ らしい

推定の助動詞

- ・明日はどうやら雨らしい。

「あの子の行動はいかにも子ども
らしい」の「らしい」は形容
詞「子どもらしい」の語尾です。



6 次の例の——線部「た」と同じ意味のものを一つ選
び、記号で答えなさい。

例 窓辺に置かれた花が美しい。

ア 昨夜はとても暑かった。

イ あなたは、鈴木さんでしたね。

ウ 壁にかけられた絵を鑑賞する。

エ ちょうど今、作品ができたところです。

7 次の——線部で推定の助動詞でないものを一つ選
び、記号で答えなさい。

ア だれも原因を知らないらしい。

イ 彼女が、どうやらリーダーらしい。

ウ 彼の研究への姿勢はとても学者らしい。

8 次の例の——線部を助動詞を使って次の(1)～(5)の意
味に直しなさい。

例 彼は、プールに入る。

(1) 丁寧の意味を表すように。

(2) 希望の意味を表すように。

(3) 過去の意味を表すように。

(4) 否定の意味を表すように。

(5) 推定の意味を表すように。

⑨ ようだ・ようです 推定、比喩の助動詞

- ・ どうやら性格はまじめなようだ。(推定の意味を表す)
- ・ まるで花が咲いたようだ。(比喩の意味を表す)

⑩ そうだ・そうです

推定・様態 (物事の様子や状態から推し量る) の助動詞
伝聞 (他の人から聞いたこと) の助動詞

- ・ 明日は雨が降りそうだ。(推定・様態の意味を表す)
- ・ 明日は雨が降るそうだ。(伝聞の意味を表す)

⑪ まい

否定 (打ち消し) の意志、否定の推量の助動詞

- ・ もう決して泣くまい。(否定の意志「くならないようにしよう」の意味を表す)
- ・ 明日は雨は降るまい。(否定の推量「くないだろう」の意味を表す)

⑫ だ・です

断定 (物事を確かなこととして言い切る意味) の助動詞

- ・ これは教科書で、あれがノートだ。
- ・ おじさんは狩りの名人です。

「だ」を「な」に置き換えられるのが形容動詞です。
・ 昨日、公園で遊んだ。(過去の助動詞「た」)
・ 今夜はとても静かだ。(形容動詞の語尾)



9 次の——線部の助動詞をA推定の助動詞とB比喩の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 彼女のようなよい人はいない。
- (2) 事件のことをみんな知っているようだ。
- (3) この寒さは冷蔵庫の中にいるようだ。

10 次の——線部の助動詞をA推定・様態の助動詞とB伝聞の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 来月くらいから寒くなりそうだ。
- (2) もうすぐ彼も来るそうだ。
- (3) 彼ならできそうなので、任せよう。

11 次の——線部の助動詞の意味を選び、記号で答えなさい。

- (1) 彼は少しも笑わない。
- (2) あの人ほど速くは走れません。
- (3) そんなことはあるまい。
- (4) 仕事をせねば、生活が成り立たぬ。
- (5) もうあの本は読ままい。
- (6) さよならも言わずに彼は去っていった。

12 次の——線部で断定の助動詞を三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼は僕の親友だ。 イ 彼女はとても親切だ。
ウ こは居間で、向こうが台所だ。 エ 湖は静かだった。
オ 彼女は以前、医者だった。 カ 昨日、庭で転んだ。

(2) 助詞

犬（ ） 猫（ ） 追いかけた。

右の（ ）の中にはどんな言葉が入るのでしょうか。

(1) 犬(が)猫(を)追いかけた。

(2) 犬(を)猫(が)追いかけた。

このように、（ ）に入れる言葉によって、追いかける側と追いかける側が逆転してしまいます。「が」や「を」は、語句と語句がどのような関係にあるのかを示しているのです。

この「が」「を」のような言葉を助詞といいます。

助詞とは

・ 付属語で、活用がありません。

・ 語句と語句の関係を示したり、いろいろな意味をつけ加えたりします。

種類

① 格助詞……主として体言につく。

例 の、が、を、に、へ、と、から、より、で、や

② 副助詞……いろいろな語句につく。

例 は、も、こそ、さえ、でも、だって、まで、しか、だけ

③ 接続助詞……主として用言や助動詞につく。

例 ば、と、ので、から、が、けれど、のに、ても、て、ながら

④ 終助詞……文や文節の終わりにつく。

例 か、の、かしら、な、ね、さ、よ、や、ぞ、わ



2の問題の解説

たしかめ問題

1 次の文の助詞に——線を引きなさい。

彼は胸のポケットから、古い大きな万年筆と小さな紙切れを取り出して、メモをしながら私の話を聞いていたよ。

2 次の——線部の助詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 今度こそ勝ちたい。

(2) こんなやり方でいいのか。

(3) 私もそう思います。

(4) この手紙を持っていく。

(5) 辛いけれど、完食した。

(6) 先生が姉と話をする。

(7) 私は大声で叫びたい。

(8) 話せばわかつてもらえるよ。

(9) 六時までに起きる。

(10) どんなに寒かろうと、上着は着ない。

(11) 駅から十分のところにある。

(12) こんなことはやりたくないや。

ア 格助詞 イ 副助詞 ウ 接続助詞 エ 終助詞

① 格助詞

文節と文節の関係を示します。主として体言につきます。

私の出した手紙。
遠くの山を眺める。
私は泳ぐのが好きだ。
よい悪いのと文句を言う。

主語を示す
連体修飾語を作る
体言の代用||こと
並立

人が歩いている。
食べものがほしい。

主語を示す
対象

本を読む。
家を出発する。
船で川を渡る。

目的、対象
起点(場所)
移動する場所

学校に行く。
十一時に寝る。
雪がとけて水になる。
講演を聞きに行く。
車にぶつけられる。

場所
時間
作用の結果
動作の目的
相手

北へ南へ走りまわる。
駅へ行く。

方向
場所

兄と買物に行く。
トラとライオンと象がいる。
四月から高校生となる。
天才とたたえられた。
友達と話す。

共同の相手(うとともに)
並立
成り行きや結果
引用
相手

九時から会議が始まる。
車から顔を出す。
原油からガソリンを作る。
事故は信号無視から起こった。

起点(時間)
起点(場所)
原料、材料
原因

太郎は次郎より大きい。
ここより先は進めません。

比較の基準
限界

五時ですべては終了する。
木でおもちやを作る。
筆で字を書く。
かぜで学校を休む。

場所、時
材料
手段、方法
原因、理由

辞書や参考書で調べる。

並立

3 次の例の「の」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

例 父の作る料理は、思ったよりもおいしい。

[]

ア 雨が降るのを眺める。
イ 大切なのは、親友をみつけることだ。
ウ 花の咲く季節が近づく。
エ 林に風の音が響く。

4 次の例の「に」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

例 ごみが目に入って痛い。

[]

ア 太陽は静かに沈んでいく。
イ 毎年ふるさとに帰るはずだ。
ウ 朝六時に起きる。
エ 水が凍って氷になる。

5 次の例の「から」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

例 転校生は東京から来たらしい。

[]

ア ワインはぶどうから作る。
イ 駅から電車で向かいます。
ウ 今日は朝から出張です。
エ 睡眠不足から頭痛になった。

6 次の例の「で」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

例 台風が接近してきたせいで、旅行は延期になってしまった。

[]

② 副助詞

さまざまな意味をつけ加えます。いろいろな語句につきます。

か

・誰か私を呼んでいる。
・父か母が来ます。

・不確かさ
・選択

やら

・計画はどうなっているのやら。
・泣くやら怒るやら。

・不確かさ
・並立

とか

・地位とか名誉とかを重んじる。
・お茶とか飲みませんか。

・並立
・例示

くらい

・五分以上待つてください。

・大体の程度
・強調

こそ

・今年こそがんばるぞ。

・他の類推
・否定と呼応する限定

さえ

・大学生さえ解けない問題。
・子どもにしかわからない。

・限定
・割り当て

だけ

・私だけがとり残された。
・一人に二つずつ配ります。

・限定
・他の類推

でも

・お茶でも飲もう。
・小学生でもできる問題。

・他の類推
・他の類推

だって

・子どもにだってわかる。
・君も困るが僕だって困る。

・他の類推
・強調

など

・猫などの動物を飼う。

・例示

なり

・行くなり帰るなりしなさい。

・選択

ほど

・十分ほど歩くと駅に着く。

・大体の程度

ばかり

・二十人ばかり人が集まる。
・寝てばかりいる。
・今、家に着いたばかりです。

・大体の程度
・限定
・動作の直後

は

・彼女は十五歳です。
・見るまでは信じません。

・取り立てる
・限定

も

・犬も猫もいる。
・水も飲みたい。
・彼とは、話もしない。

・並立
・他に同類がある
・強調

まで

・朝は七時まで寝ている。
・友達にまで笑われた。
・雨が降り、風まで吹く。

・限度（限界、範囲）
・極端な例
・累加

ア 港は波も穏やかで、船出には絶好の日和だ。
イ 家の軒下で、今年もツバメのひながかえった。
ウ 久しぶりの雨で、庭の草木も生氣を取り戻した。

7 次の文の副助詞に全て——線を引きなさい。

(1) そのとき私は、水しかのどを通らないくらい疲れていた。

(2) 小学生でも解けるような問題ばかりを集めた。

(3) 彼さえいてくれれば、こんなに苦勞することもなかった。

(4) 一人ずつ十分ほどの休憩を取ってください。

(5) 彼だけが来ない理由は、私だって知らない。

8 次の——線部の副助詞と同じ働きをするものを二つ選び、記号で答えなさい。

(1) 誰かここへ来たらしい。

ア 辞書が参考書で調べる。

イ 今年は海か山へ行きたい。

ウ 何人か手伝ってくれたから助かった。

(2) 一年間で身長が十センチばかり伸びた。

ア あと五分ばかりで開始です。

イ いつも自分ばかりしかられてしまう。

ウ 今、料理ができたばかりです。

(3) その花は、冬まで枯れないでしょう。

ア 妹にまでばかにされてしまった。

イ 寒いと思ったら、やがて、雪まで降りはじめた。

ウ 五時まで駅で待っています。

③ 接続助詞

上の部分と下の部分をつなぎ、その関係を示します。
主として用言や助動詞（活用する単語）につきます。

し	・ 頭もいいし、性格もいい。	・ 並立
たり（だり）	・ 見たり食べたり遊んだり。	・ 並立
から	・ 体調が悪いから休む。	・ 理由
ので	・ うるさいので出窓をしめる。	・ 理由
て（で）	・ 道が悪くて歩けない。 ・ 頭もよくて、性格もいい。 ・ 歩いて学校へ行く。 ・ 外で遊んでいる。	・ 原因、理由 ・ 並立 ・ 手段、方法 ・ 補助の関係を作る
ば	・ 本も読めば、字も書く。 ・ 雨が降れば、かさがいる。	・ 並立 ・ 条件
と	・ 暖かくなると花が咲く。 ・ 雨が降ろうと、僕は行く。	・ 順接 ・ 逆接
が	・ 量も多いが、味もいい。 ・ 昼間は暑いが、夜は寒い。	・ 並立 ・ 逆接
ながら	・ 話しながら歩く。 ・ 知っていながら教えない。	・ 同時 ・ 逆接
つつ	・ 痛い足をかばいつつ歩く。	・ 同時
なり	・ ひと目見るなり病気とわかった。	・ 同時
けれど	・ 質もいいけれど、値も高い。 ・ 秋になったけれど、暑い。	・ 並立 ・ 逆接
のに	・ 春なのに、雪が降る。	・ 逆接
ても	・ 冬になっても、暖かい。	・ 逆接

9 次の文の接続助詞に（ ）内の数だけ——線を引きなさい。

- 自分を成長させてくれるきっかけはいろいろあるが、そのひとつに本との出会いがある。 (2)
 - 電池を替えても動かないので、故障したのだろう。 (2)
 - 太陽がとても強く照りつけるので、木陰に入って絵を描いたり本を読んだりしていた。 (5)
- 10 次の——線部の接続助詞と同じ働きをするものをつ選び、記号で答えなさい。
- 国語もできれば、数学もできる。
ア 春になれば、桜の花が咲く。
イ 文もうまければ、絵もうまい。
 - 足が痛くて走れない。
エ ちりも積もれば、山となる。
 - 通路が狭くて通れない。
ア 電車に乗って、高校へ通う。
ウ 彼女は背が高く、姿勢がいい。
 - このボールは小さいが重い。
ア この服は形もいいが、色合いもいい。
イ 小鳥が鳴いている。
ウ 彼は体は大きい弱い。
エ 父は帰るのが遅い。

④ 終助詞

話し手や書き手の気持ちや態度を表します。
文や文節の終わりにつきます。

か	・あの人はだれですか。 ・君はこれでよいのか。 ・君もいっしょに行かないか。 ・とうとう優勝したのか。	・疑問 ・反語 ・勧誘 ・感動
よ	・杉浦さんなら、さつき帰ったよ。 ・もう起きる時間ですよ。 ・みんな、がんばろうよ。	・告知 ・強調 ・勧誘
さ	・彼はきつと来るさ。 ・まあ、それでもいいさ。	・断定 ・軽く言い放つことを表す
ぞ	・これは変な話だぞ。	・強調
とも	・もちろん、行くとも。	・強い言い切り
なあ	・この映画はよかったなあ。	・感動
な	・夕焼けがきれいだな。 ・やっぱりよかったんだな。 ・遅いから早く寝な。 ・廊下を走るな。	・感動 ・軽い断定 ・軽い命令 ・禁止
ね	・君は、それでいいのだね。	・念押し
の	・あなたはもう終わったの。 ・彼はきつと来ると思うの。	・疑問 ・断定
わ	・海の水がとてもきれいだわ。 ・これで終わりましたわ。	・感動 ・やわらかい断定
かしら	・この服似合うかしら。	・疑問
や	・こんな遊びつまらないや。	・軽く言い放つことを表す

11 次の文の終助詞に全て——線を引きなさい。

- (1) みんなが元気だと幸せだな。本当にうれしくなるよ。
- (2) これは、あなたのペンですか。
- (3) 君もいっしょにやらないか。きつと、楽しいぞ。

12 次の——線部の終助詞の働きをあとの□から選び、記号で答えなさい。

- (1) 出発まであと五分しかないから急ぎな。
- (2) 図書館では、話をするな。
- (3) 外もだいぶ暗くなってきたから、そろそろ帰ろうか。
- (4) あなたは今度の休みに何をしますか。
- (5) いよいよ明日は本番だぞ。

ア 禁止	イ 勧誘	ウ 軽い命令
エ 強調	オ 疑問	

13 次の例の——線部の助詞と同じ働きをするものをつ選び、記号で答えなさい。

- 例 君にこの問題が解けるというのか。
- ア あなたはどこの学校の生徒ですか。
- イ 僕たちといっしょに野球をしないか。
- ウ 時間がないのに、こんなにのんびりしてよいのか。
- エ 次の日曜日に、みんなで公園の掃除をしませんか。

[] []

V

類義語・対義語・多義語

学習のねらい

★類義語・対義語・多義語を身につけ、言葉の幅を広げる。

(1) 類義語……似た意味をもつ語のグループ

表す内容は同じですが、語感や意味に微妙な違いがあります。

例 端 || 隅 || 縁 中心 || 中央 || 真ん中
昨年 || 去年 対比 || 比較 気絶 || 卒倒
長所 || 美点 裂く || 破る あける || ひらく

(2) 対義語……意味が反対の関係や対の関係にある二語

どのような観点で対比するかによって、対応する語が変わります。

例 上 ⇕ 下 表 ⇕ 裏 兄 ⇕ 弟
甘口 ⇕ 辛口 消極 ⇕ 積極 一般 ⇕ 特殊
義務 ⇕ 権利 貸す ⇕ 借りる 高い ⇕ 低い 姉 ⇕ 妹

(3) 多義語……一つの語で多くの意味や用法をもつ語

多義語の意味は、使われている文脈から判断できます。

例
・さんまのうまい季節。(味がよい)
・歌がうまい。(上手である)
・うまい話に乗せられる。(都合のよい)
・魚をとる。(捕獲する)
・人の物をとる。(盗む)
・宿をとる。(予約する)
・責任をとる。(引き受ける)

たしかめ問題

1 例にならって、次の言葉の類義語、対義語を書きなさい。

例 理由 || 原因 (類義語) 創造 ⇕ 模倣 (対義語)

(1) 基礎	(2) 用意	(3) しゃべる	(4) ひねる	(5) 公 ⇕	(6) 難 ⇕	(7) 直接 ⇕	(8) 興奮 ⇕	(9) 栄える ⇕	(10) 温かい ⇕
--------	--------	----------	---------	---------	---------	----------	----------	-----------	------------

2 次の多義語の意味・用法にあてはまるものを次のア〜エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

・指を紙できる。
・トランプをきる。
・応募者が百人をきる。
・洗った野菜の水分をきる。

ア 下回る イ 傷つける
ウ 取り除く エ 混ぜ合わせる



類義語・対義語・多義語 練習問題

VI 敬語

私たちが話をするときや文章を書くとき、聞き手や読み手などに対して敬う気持ちを表す言葉を敬語といいます。敬語は、相手への心遣いを表す言葉です。敬語を使うことは、堅苦しいことではなく、人と人との間をスムーズに結ぶための大切な心構えです。



丁寧語・尊敬語・謙譲語
詳しい説明(動画)

(1) **丁寧語**……話し手(書き手)が聞き手(読み手)に対して丁寧さを表す敬語。

例

- ・僕は中学生だ。 ↓ 僕は中学生です。
- ・今から彼女が歌う。 ↓ 今から彼女が歌います。
- ・まだ時間がある。 ↓ まだ時間がございます。

① 助動詞(断定)「だ」を「です」に言い換える。

給食だ。 ↓ 給食です。

② 助動詞(丁寧)「ます」をつける。

六時に起きる。 ↓ 六時に起きます。

③ 特別に丁寧な言い方「で」「ございます」を用いる。

これが注文の品よ。 ↓ これが注文の品でございます。

美化語

誰に対する敬意でもなく、話し手(書き手)が、自分自身の言葉を美しく表現するものを「美化語」という。

例 お風呂 お箸 お菓子 ご飯 ごちそう

学習の
ねらい

★ 敬語の働きや種類を知り、敬語を自分のものにする。

たしかめ問題

1 線部の言葉を言い換えて、丁寧語を使った表現にしない。

(1) それは、私の思い出の写真だ。

(2) 吾輩は猫である。

2 次の文を丁寧語を使った表現に直し、全て書きなさい。

(1) 昨日、水族館に行った。

(2) 彼はそこであの人と出会ったのだろう。

(3) 今日のカレーは、激辛だった。

(4) 今、北海道に住んでいる。

(5) みんなで一緒に歌おう。

(6) ある日、吹雪で外出できなかった。

(2) **尊敬語**……話題の中の動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語。

例

- ・あの人は、二時に来る。 ↓ あの方は、二時にいらっしゃる。
- ・先生が本を読む。 ↓ 先生が本をお読みになる。
- ・君は、そう思うのだね。 ↓ あなたは、そう思われるのですね。
- ・客から届いた手紙がある。 ↓ お客様から届いたお手紙がございます。

敬意を表す人やその人の動作・様子・所有物などを直接高めます。

① **動詞（敬語動詞）に置き換える。**

- 行く・来る ↓ いらっしゃる・おいでになる
 - いる ↓ いらっしゃる・おいでになる
 - 言う・話す ↓ おっしゃる
 - 見る ↓ ご覧になる
 - 食べる ↓ 召し上がる
 - する ↓ なさる
 - くれる ↓ くださる
- ※到着する ↓ 到着なさる
※呼んでくれる ↓ 呼んでくださる

② **「お（ご・御）になる」をつけ加える。**

- 聞く ↓ お聞きになる 疲れる ↓ お疲れになる
- 思う ↓ お思いになる 利用する ↓ ご利用になる

③ **助動詞（尊敬）「れる・られる」をつける。**

- 思う ↓ 思われる 上達する ↓ 上達される
- 起きる ↓ 起きられる 受ける ↓ 受けられる
- 来る ↓ 来られる

④ **敬意を表す接頭語・接尾語をつける。**

- お宅 御社 御案内 貴校 尊父 (〇〇からの) お手紙・ご意見
- 鈴木様 姉さん 田中君 (※宛名 ↓ 会社 御中)

⑤ **名詞**

- 方（かた） あなた どなた

動詞全般に使える形

たしかめ問題

1 — 線部の言葉を言い換えて、尊敬語を使った表現にしなさい。

(1) 先生の言うとおりです。

(2) 今日は、家にいますか。

(3) 校長先生は、もう帰りました。

(4) 社長が来る。

(5) 何を食べますか。

(6) 八木先生が、分かりやすく説明した。

2 次の文を正しい敬語を用いた表現に直し、全て書きなさい。

(1) 習字の先生が、私の作品を拝見する。

(2) 客がディナーをお召し上がりになられる。

(3) 加藤は、家族様とゴルフをしますか。

(3) 謙譲語……話し手（書き手）自身がへりくだることによって、動作・行為が向かう先に対して敬意を表す敬語。

例

- ・夕食を食べる。 ↓ 夕食をいただく。
- ・今すぐに行きます。 ↓ 今すぐに参加します。
- ・先生に提出物を渡す。 ↓ 先生に提出物をお渡しする。
- ・この本を借ります。 ↓ この本をお借りします。

謙譲語は、自分の所有物や行動、身近なものに対して使われます。

① 動詞（敬語動詞）に置き換える。

- | | | |
|-------|---|-----------|
| 行く・来る | ↓ | 伺う・参る |
| いる | ↓ | おる |
| 言う・話す | ↓ | 申す・申し上げる |
| 見る | ↓ | 拝見する |
| 食べる | ↓ | いただく |
| もらう | ↓ | いただく |
| する | ↓ | いたす |
| 聞く | ↓ | 伺う・承る |
| 知る・思う | ↓ | 存じる |
| やる | ↓ | あげる・差し上げる |

② 「お（ご・御）くする」をつけ加える。

- | | | | |
|-----|---|-------|--------------|
| 持つ | ↓ | お持ちする | 説明する ↓ ご説明する |
| 届ける | ↓ | お届けする | |

③ 謙譲の意を表す接頭語・接尾語をつける。

- | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|---------|-----|-----|
| 粗品 | 拙宅 | 弊社 | 寸志 | 愚見 | （〇〇様への） | お手紙 | ご意見 |
| 私ども | 私め | | | | | | |

身内（自分の家族、同僚）のことを他の人に言う場合には、謙譲語を使います。

- × お父さんは家にいません。 ↓ ○ 父は、家におりません。

謙譲語の中には、丁寧語の「ます」をつけて使われ、聞き手への敬意を表すものとして「丁寧語」とするものもある。

例
参ります
申します
存じます
いたします

動詞全般に使える形

たしかめ問題

1 — 線部の言葉を言い換えて、謙譲語を使った表現にしなさい。

(1) 校長先生から、賞状をもらいました。

(2) 御社の資料を見る。

(3) 早速、お宅へ行きます。

(4) バスの中で、先生に会いました。

(5) お客様の注文を聞く。

(6) ロビーで荷物を預かる。

2 次の文を正しい表現になるように直しなさい。

(1) 弊社のみなさんに、御社の社長の佐藤が、日頃の礼をおっしやいます。

(2) おじいさんが、先生の話を聞きになりたいそうです。

(3) お世話になった先輩にプレゼントをやる。

VII 漢文のきまり

学習の
ねらい

- ★ 漢文の文章の種類を知る。
- ★ 漢文の読み方を学ぶ。
- ★ 漢詩の種類と形式、特徴を学ぶ。

一 漢文の文章の種類

白文とは

漢字だけで書かれた中国の文章
(漢文)の原文を白文といいます。

訓読文とは

白文を日本語として読むことを訓読といいます。
訓読するために、白文に訓点(送り仮名や句読点、読む順番を表す返り点)を
補った文章のことを訓読文といいます。

〈送り仮名・返り点のきまり〉

① 送り仮名……漢字の右下に、片仮名で書かれたもの。

漢字の送り仮名だけでなく、「て・に・を・は」なども補う。

② 返り点 ……漢字の左下に添えられた、読む順番を表す記号。

● レ点Ⅱ下の一字から、すぐ上の一字に返って読む。

例 登^②山^①。 ※数字は、返り点に従って読む順序。

● 一・二点Ⅱ二字以上を隔てて、上に返って読む。

例 知^③天^①命^②。

白文

我 読 書

訓読文

我 読^レ書^ヲ。

書き下し文 我書を読む。

たしかめ問題

1 例にならって、読む順番を□の中に書きなさい。

例 1 2 4 3。

(1)	(2)	(3)	(4)

2 次の訓読文を書き下し文に直して書きなさい。

(1) 有^レ備^ヘ無^シ憂^レ。

(2) 百^ハ聞^ハ不^ズ如^カ一^ニ見^ニ。

(3) 不^ズ入^ニ虎^ノ穴^ニ、不^ズ得^ニ虎^ノ子^ニ。

書き下し文とは

漢文を訓読し、漢字仮名交じりの文章に書き改めたものを書き下し文といいます。

＜書き下し文のきまり＞

① 送り仮名は、歴史的仮名遣いのまま、平仮名に直して書く。

例 思。↓ 思ふ。

② 「不(ず)」「之(の)」「也(なり)」など、助動詞や助詞は平仮名に直して書く。

例 不_レ思_ハ。↓ 思はず。

二 漢詩のきまり

漢詩の種類と形式

四句（四行）から成る詩を絶句、八句（八行）から成る詩を律詩といいます。また、一句の字数は五言（五字）のものと、七言（七字）のものとがあります。

絶句	
特徴	起承転結の構成法。
例	五言絶句 起 承 転 結 春 眠 不 覚 夜 来 風 雨 花 落 知 多 少 声 鳥 晓
押韻……句の末尾に同じ韻（音の響き）の漢字を置く。	
律詩	
特徴	対句……形や意味の似ている二つの句を並べる表現方法。
例	五言律詩 国 破 山 河 在 城 春 草 木 深 感 時 花 溅 淚 恨 别 鳥 驚 心 烽 火 連 三 月 家 書 抵 万 金 白 頭 搔 更 短 渾 欲 不 勝 簪
対句	

3 A、B、Cの漢詩について、次の問いに答えなさい。

A
 春 眠 不 覚 晓
 夜 来 風 雨 声
 花 落 知 多 少

B
 江 碧 鳥 逾 白
 山 青 花 欲 然
 今 春 看 又 過
 何 日 是 帰 年

C
 故 人 西 辞 黄 鶴 楼
 煙 花 三 月 下 揚 州
 孤 帆 遠 影 碧 空 尽
 唯 見 長 江 天 際 流

(1) AとCの漢詩の形式をそれぞれ漢字四字で書きなさい。

A

C

(2) 次の訓読文を書き下し文に直しなさい。

① 春 眠 不_レ覚_ハ晓_ヲ

② 煙 花 三 月 下_ニ揚 州_ニ

(3) Bの第一句と第二句は、形や意味が似た構成になっている。このような表現技法を何というか。漢字二字で書きなさい。



総合問題 ①

1 次の文章の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

この仮説を検証^①するために、私たちはクマゼミの卵がどれぐらいの低温に耐えられるかを実験^③してみた。その結果、なんと氷点下二十一度に一日置いても、大部分が生き延びることがわかった。

次に、長く続く寒さへの耐性を調べた。観測史上、大阪市の一か月の平均気温が零度を下回ったことはない。そこで、それより低い氷点下五度に三十日間置いてみたが、特に影響は見られなかった。

(沼田英治「クマゼミ増加の原因を探る」)

①	活用	②	活用	③	活用	④	活用
⑤	活用	⑥	活用	⑦	活用	⑧	活用
⑨	活用	⑩	活用				

2 次の文章の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

私は医者^①に、昔のように走ることはできないだろうと言われた。足の傷は治り^④、半年で固定も取れるが、腕はいつ治るかわからないと言われた。今でもつづいている腕が痛むときがある。

①	形	②	形	③	形	④	形	⑤	形
⑥	形	⑦	形	⑧	形	⑨	形	⑩	形

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝の霧が湖面を覆い、幻想的な景色が広がった。山々の頂は青空に溶け込み、緑の斜面がとても美しく連なる。古い街並みを散策すると、石畳の隙間から咲く花に目を引かれた。小さなカフェで、温かいコーヒーを飲んだ。窓から見える海は、夕陽に照らされて輝いていた。夜になると、星空が広がり、静かな空間に包まれた。美しい風景が、心に深く刻まれている。

その記憶は、今も鮮やかに蘇る。

(1) 線①～④の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

①	活用	②	活用
③	活用	④	活用

(2) 線アイの品詞を書きなさい。

(3) 線ウエオの品詞と活用形を書きなさい。

ア	品詞	活用形
イ		
ウ		
エ		
オ		



総合問題②

◎品詞分類表（口語）：文法上の性質によって単語を分類した表

単 語

付 属 語

自 立 語

The diagram illustrates the classification of Japanese words into dependent (付属語) and independent (自立語) categories. It is organized into two main columns: 付属語 on the left and 自立語 on the right. Each column has a vertical axis for usage (活用しない / 活用する) and a horizontal axis for grammatical function (numbered 1-10). A large red 'X' is drawn over the 自立語 section, indicating that these words are not the focus of the current lesson.

活用しない	活用する
活用しない	活用する
独立語になる	述語になる(用言)
接続語になる	主語になる(体言)
修飾語になる	主に連用修飾語になる
連体修飾語になる	ウ段で終わる
	「い」で終わる
	「だ」「です」で終わる
	形容詞
	動詞

10 助詞	9 助動詞	8 感動詞	7 接続詞	6 連体詞	5 副詞	4 名詞	3 形容動詞	2 形容詞	1 動詞
〈例〉が・は・を・に	〈例〉たい・た・です	〈例〉あら・はい 感動・呼びかけ・応答を表す	〈例〉だから・しかし 主に文と文をつなぐ	〈例〉この・大きな 体言だけを修飾する	〈例〉ゆっくり・もし 主に用言を修飾する	〈例〉犬・机・彼 生き物・物・事などを表す	〈例〉変だ・きれいだ 状態・性質を表す	〈例〉楽しい・美しい 状態・性質を表す	〈例〉歌う・ある 動作・変化・存在を表す



2 年 組 番

氏 名

令和8年度版

ひまわり
の
あそび

2

教師用



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

もくじ

I	一年生の復習	2
一	言葉の単位	2
二	品詞の分類	3
II	自立語	4
一	活用する自立語	4
(1)	動詞	4
(2)	形容詞	6
(3)	形容動詞	7
二	活用しない自立語	8
(1)	名詞	8
(2)	副詞	12
(3)	連体詞	14
(4)	接続詞	16
(5)	感動詞	17
III	用言の活用	18
一	動詞	18
(1)	動詞の活用	18
(2)	動詞の活用の種類	20
二	形容詞・形容動詞	23
(1)	形容詞・形容動詞の活用	23
IV	付属語	27
一	付属語の種類	27
(1)	助動詞	27
(2)	助詞	33
V	類義語・対義語・多義語	38
(1)	類義語	38
(2)	対義語	38
(3)	多義語	38
VI	敬語	39
(1)	丁寧語	39
(2)	尊敬語	40
(3)	謙讓語	41
VII	漢文のきまり	42
一	漢文の文章の種類	42
二	漢詩のきまり	43

この本のしくみ

「ことばのきまり」は、およそ次のように構成されています。
※この構成は、学年や単元によって異なりますが、基本的な学習を終えて練習問題に進むことになっています。

3 練習問題に取り組もう

- ① 基本問題をさらに解き、学習の定着を図ります。
- ② 基本問題よりやや難しい発展問題を解きます。

1 例を示して説明するところ

例文を示して説明します。
必要に応じて、詳しく説明します。

I 文法の復習

一 言葉の単位・品詞の分類

文 …… いろいろな言葉や言葉を足したり、替たり行動を繰り返したりする
言葉のまとまりを「言葉の単位」といいます。言葉の単位は「品詞」で分類されます。
品詞は、言葉の働きによって分類されます。言葉の働きは、言葉の単位によって決まります。

品詞の種類

- 名詞
- 動詞
- 形容詞
- 形容動詞
- 副詞
- 連体詞
- 接続詞
- 感動詞

2 たしかめ問題

解説を受けて、基本的な問題を解きます。

例文を示して説明します。
必要に応じて、詳しく説明します。

★ アドバイス

それぞれのアドバイスにしたがって、自主的に学習を進めましょう。

「ことばのきまり」は、授業や教科書に合わせて、自主的に学習を進めることができるように編集してあります。この本のしくみと使い方を説明しますので、よく読んで、学習を進めていきましょう。

『ことばのきまり2』を学ぶにあたって
— 優れた言葉の使い手になろう —



コンビニエンスストアで支払いをするとき、「千円からお預かりします」と言われ、違和感を覚えるという話があります。言葉は、生きているものであり、時代や環境によって使い方が変わるものではありませんが、耳障りに感じる人も多いのではないでしようか。だれにとっても心地よい、正しく美しい日本語の使い手となれるように文法を学んでいきましょう。

『ことばのきまり2』では、一年生の復習をIでを行い、それをもとに、Ⅶまでの内容を学習します。

Ⅱでは、三つの活用する自立語と五つの活用しない自立語について学習します。

言葉の意味からだけでなく、品詞としてのきまりを知ることにより正確に、感性鋭く、言葉を理解することができます。

例えば、動詞では、「自転車が壊れた」。(自動詞)は壊れた原因が自分にはないことが分かり、それに対して、「自転車を壊した」。(他動詞)では、作用の原因が作用側にあることを表現しています。自動詞か他動詞かを知ること、他の例でも、よりの確に動詞を使うことができるようになるでしょう。

Ⅲでは、用言の活用について。Ⅳでは、語句と語句の関係を示し、気持ちや判断を表す付属語について。Ⅴでは、類義語・対義語・多義語について。Ⅵでは、敬語について。Ⅶでは、漢文のきまりについての学習を進めていきます。

類義語等の知識を深めることで、比較したり、複数の視点で考えたりしながら、実践的に使える言葉の幅が広がることで、敬語は、相手への心遣いを表し、人と人との関係を結ぶ重要な言葉です。学習を通して、言葉を使う際の相手への意識も磨くことになるでしょう。

学習の見通しをもち、実感して分かるまで練習し、言葉の知識を整理して、みなさんが、優れた言葉の使い手になることを願っています。

I 一年生の復習

学習のねらい

★ 一年生で学習した内容を復習する。

一 言葉の単位

文とは

いろいろな出来事や事柄を、伝えたり、尋ねたり、行動を誘いかけたりする言葉のまとまりを**文**といいます。
文の区切りは、文字で書く場合は「。」(句点)で示するのが普通です。話すときは、そこで息を切って、少し休むことで表します。

文節とは

発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまりを**文節**といいます。
このように考えると、文は全て一つ以上の文節からできています。ですから、文節は文を組み立てる単位であるといえます。

次の二つの文を文節に区切ってみましょう。

a 赤い花がきれいに咲く。

「赤い 花が きれいに 咲く。」

b 大きな夕日がゆっくりと沈みます。

「大きな 夕日が ゆっくりと 沈みます。」

意味もわかり、息の切り方も自然なひと区切りが文節です。文節に区切るときは、文中に「ね」「さ」などを入れて意味が通じることがかを考えて判断しましょう。

文節どうしの関係とは

- ① 「何が」「誰が」——「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」「ない」の関係
↓主・述の関係
- ② ある文節が他の文節を詳しくしている関係
↓修飾・被修飾の関係
- ③ 接続語がつなぐ文と文との関係や、あとに続く文節との関係
↓接続の関係
- ④ 独立語と、それ以外の文節との関係
↓独立の関係

単語とは

文節をさらに細かく分け、それ以上分けると言葉としての意味がなくなるか、言葉としての役割を果たさなくなるというところまで区切った**言葉の最小単位**を**単語**といいます。

冷たい 水が 谷を 流れた。

右の例文は、四つの文節からできています。これを、さらに細かく分けてみましょう。

冷たい 水が 谷を 流れた。

となります。つまり、七つの単語に分かれます。

二 品詞の分類

単語は、文法上の性質によって、十品詞にまとめられます。文法上の性質には、次のようなものがあげられます。

- ・自立語か、付属語か。
- ・文中で語の形が変化する（活用する）か、変化しない（活用しない）か。
- ・文中でどの文の成分（主語・述語・修飾語・接続語・独立語）になるか。
- ・体言（名詞）か、用言（動詞・形容詞・形容動詞）か。※「品詞分類表」参照（巻末）
- ・どんな形や働きをもつか。

自立語と付属語とは

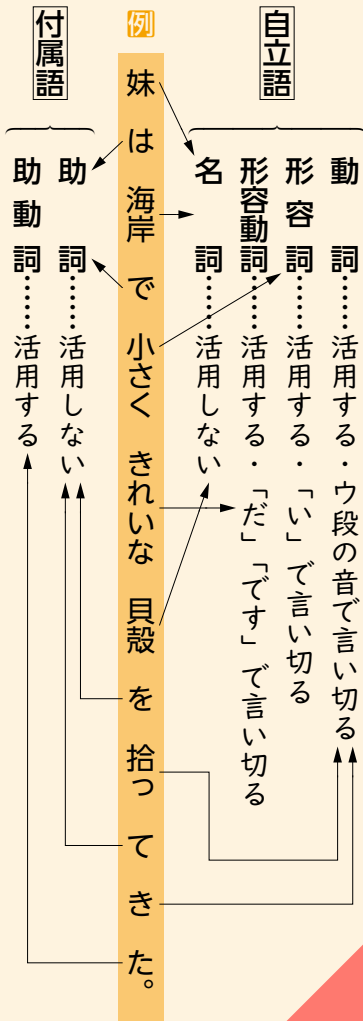
大きな桃が川を流れた。

「大きな」の文節は、一つの単語からできており、意味をもっています。

「桃が」「川を」「流れた」の文節は、「桃」「川」「流れ」の単語に意味があり、「が」「を」「た」は、それらの単語について文節を作っています。

「大きな」のように、単独で文節を作ることのできる単語、また、「桃」「川」「流れ」のように、文節の初めにくる単語を**自立語**といいます。自立語は一文節に必ず一つあります。

「が」「を」「た」のように、単独で文節を作ることができず、常に自立語のあとについて、自立語と一緒に文節を作る単語を**付属語**といいます。



たしかめ問題

1 次の——線部の単語を、A自立語とB付属語に区別し、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-------------|-------|--------------|-------|
| (1) 駅に行く。 | [A] | (2) よく考える。 | [A] |
| (3) 私のだ。 | [B] | (4) 明日のことです。 | [A] |
| (5) 考えます。 | [B] | (6) この本か。 | [A] |
| (7) うん、いいよ。 | [A] | (8) 雪のようだ。 | [B] |

2 次の文を例にならって単語に分け、自立語か付属語かを書きなさい。

例 彼——は——よく——歌——を——歌——っ——て——い——る。

自立語: 彼, 歌, 歌った, いる
付属語: は, よく, を, て

(1) 太陽——が——沈——む——と——気——温——が——下——が——る。

自立語: 太陽, 沈む, 気温, 下がる
付属語: が, と, が

(2) 父——は——ア——メ——リ——カ——で——早——速——仕——事——を——始——め——た。

自立語: 父, アメリカ, 早速, 仕事を始めた
付属語: は, で, を

(3) 大——雨——で——花——壇——は——水——浸——し——に——な——っ——て——し——ま——っ——た。

自立語: 大雨, 花壇, 水浸し, になった, しまった
付属語: で, は, に, って, った

Ⅱ 自立語

学習のねらい

★「自立語」にはどのような種類があるのかを知る。
★「品詞」にはそれぞれどのような性質や働きがあるのかを理解し、それぞれの品詞を見分けられるようにする。

一 活用する自立語

(1) 動詞

・手紙を書く。朝早く起きる。
・背が伸びる。洗たく物が乾く。
・猫がいる。本がある。
例文の「書く」「起きる」「伸びる」「乾く」「いる」「ある」が動詞です。

動詞とは

・自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」段の音になります。
・物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。

いろいろな動詞

① 自動詞

・人が集まる。・気分が変わる。
例文の「集まる」「変わる」のように、それ自身の動作や変化を表し、「(何が)どうなる」かを表す動詞を自動詞といいます。

② 他動詞

・人を集める。・気分を変える。

たしかめ問題

1 次の単語の中から動詞を選び、記号に○をつけなさい。

ア 探す イ 静かだ ウ 勉強する エ そして
オ 笑う カ 今日 キ 泣く ク 浮かぶ
ケ 美しい コ する サ 震える シ 悪い
ス しばらく セ 激しい ソ いる

2 次の動詞について、例にならって自動詞か他動詞かを区別し、自動詞ならそれに対する他動詞を、他動詞なら自動詞を書きなさい。

例	(1)	(2)	(3)	(4)
見る	消える	始める	離す	育つ
他	自	他	他	自
見える	消す	始まる	離れる	育てる

全ての動詞に自動詞と他動詞の対応があるわけではありません。



例文の「集める」「変える」のように、他への動作や変化を表し、「(何を)どうする」かを表す動詞を他動詞といいます。

③ 可能動詞

・この本なら僕にでも読める。

例文の「読める」は、「読むことができる」の意味の動詞です。このように「〜できる」という可能の意味がある動詞を可能動詞といいます。可能動詞は、五段活用 of 動詞をもとにした下一段活用の動詞です。命令形はありません。(動詞の活用についてはP18以降で学習します)

- ・読む(五段)——読める(下一段)
- ・歩く(五段)——歩ける(下一段)

④ 補助動詞(形式動詞)

・咲いている。・行ってみる。

例文の「いる」「みる」のように、本来の「いる(存在する)」「見る」などの意味が薄れ、上の言葉に意味を補う動詞を補助動詞(形式動詞)といいます。補助動詞は平仮名書きを原則とします。このほかに、「ある・あげる・もらう・やる・くれる・しまう・おく」などがあります。

⑤ 複合動詞

名詞・動詞・形容詞の語幹(詳しくはP19参照)がついて、一つの動詞を作ったものを複合動詞といいます。

- ・名づける・勉強する(名詞+動詞)
- ・結びつく(動詞+動詞)
- ・近寄る(形容詞の語幹+動詞)

活用する言葉の変化しない部分を語幹といっています。(詳しくはP19参照)



③ 次の文の可能動詞に——線を引きなさい。

(1) 字を上手に書ける。

(2) 彼は英語を話せる。

(3) すずめは空を飛べる。

(4) 昔は二十五メートルほど泳げた。

④ 次の文の補助動詞(形式動詞)に——線を引きなさい。

(1) 友達への手紙を書いている。

(2) 話を聞いてみると、意外に複雑だった。

(3) テストのために、日ごろから勉強しておく。

(4) 分からないことを教えてあげる。

⑤ 次の文の複合動詞に——線を引きなさい。

(1) 山の中で遊び回る。

(2) 細胞の仕組みを研究する学者。

(3) 手紙に宛名を書き忘れる。

(4) みんなでアイデアを出し合う。

(5) 長引く入院に嫌気がさした。

(6) 突然の物音に身構える。

(2) 形容詞

- ・海はとても広かった。
 - ・彼は優しい。
 - ・暗い夜道を歩く。
 - ・砂糖で甘く煮る。
- 例文の「広かつ」「暗い」「優しい」「甘く」が形容詞です。
- (状態) (性質)

形容詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「い」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

補助形容詞 (形式形容詞)

- a その公園にはブランコがない。
 - b その公園は広くない。
- aの「ない」は「無い」という意味ですが、bの「ない」は「広く」に打ち消しの意味を添えています。形容詞本来の意味を失い、上の文節を助け、意味を補う役割をもった形容詞を補助形容詞 (形式形容詞)といいます。「ない」のほかに「ほしい」や「よい」などがあります。

補助形容詞の見分け方

- ・「ない」の上に「は」が入る。
 - 時間がない。↓ ×時間がはない。
 - 早くない。↓ ○早くはない。
 - 静かでない。↓ ○静かではない。
 - ・「くで+補助形容詞」の形で使われる。
 - 梅干しは体によい。(形容詞) もっと時間がほしい。(形容詞)
 - 教科書を見てよい。(補助形容詞) もっとがんばってほしい。(補助形容詞)
- ※補助形容詞は、平仮名書きを原則とします。

たしかめ問題

1 次の単語の中から形容詞を選び、記号に○をつけなさい。

- ア 涼しい イ 考える ウ 静かだ エ 暖かい
オ 走る カ 感じる キ 終わり ク 美しく
ケ 戦い コ 細やかな サ 楽しい シ おはよう

2 次の——線部が補助形容詞であるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) ア 願いを聞き入れて、仲間の一人に入れてほしい。
イ のどがかわいたので、水かお茶がほしい。
ウ 水分補給するときは、塩分もほしい。
エ ほしかった本が売り切れてしまった。

ア

- (2) ア 彼女は非の打ちどころのない母親である。
イ 東京に比べるとあまり寒くない。
ウ これぐらいしか弟を喜ばせる方法がなかった。
エ あの手紙は、今はもうない。

イ

- (3) ア 夏休みの課題は計画的にやるのがよい。
イ 体調が悪いのなら、体育の授業を見学してよい。
ウ 困ったときには相談した方がよい。
エ 心に浮かんだことをそのまま詩に表せばよい。

イ

(3) 形容動詞

- ・きれいな教室に入る。
(状態)
 - ・彼はほがらかだ。
(性質)
- 例文の「きれいな」「ほがらかだ」が形容動詞です。

形容動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「だ・です」になります。
名詞に続く形が「な」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

形容動詞の語幹

- ▼語幹だけで言い切ることがあります。(「だ」を省略した形)
 - ・まあ、きれい。
 - ・これは、立派。
- ▼語幹だけを名詞として用いることがあります。
 - ・小さな親切が、感謝された。

- ▼形容詞と形容動詞のどちらの語幹にもなるものがあります。

・あたたかい (形容詞)
・あたたかだ (形容動詞)

形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているのに、区別はほとんどありませんが、活用のしかた(P23・P24参照)に違いがあるので、独立した品詞として考えます。

たしかめ問題

1 次の語句の中から形容動詞を選び、記号に○をつけなさい。

- | | | |
|---------|--------|---------|
| ア 親切だ | イ 中学生だ | ウ 立派だ |
| エ おそろしく | オ 鮮やかだ | カ 小さな |
| キ まるで | ク 困難な | ケ 嵐だ |
| コ ゆっくり | サ のどかな | シ いろいろな |

2 次の——線部が形容動詞であるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼は穏やかな性格なので、親しまれている。
イ 昨日は雨だったから、今日は涼しい。
ウ 大きな声であいさつをすると気持ちがよい。

[ア]

形容動詞と名詞の見分け方

形容動詞……「どんなだ」を表す

この町は平和だ (形容動詞の終止形)

名詞……「何だ」を表す

この町に必要なのは平和だ (名詞+助動詞の「だ」)

見分けた言葉の直前に「とても」などを入れると、区別できることが多いです。「とても」が入る場合は形容動詞、入れると不自然になるものは「名詞+だ」です。

た
し
か
め
問
題

1 次の文の——線部の代名詞が指す言葉を書きなさい。

(1) 田中さん、あなたは歌がうまいのねえ。

指示代名詞			人称代名詞		
方向	場所	事物	わたくし 僕	私	自称
			きみ おまえ	あなた	対称
こちら	こちら	こちら	彼 彼女	こちら	話し相手に近い 近称
そっち	そっち	それ		そちら	話し相手に近い 中称
あちら	あそこ	あれ		あちら	遠い 遠称
どちら	どこ	どれ	だれ	どなた	不定称

- ・「どこ。ここからじゃ、遠くて分らないわ。」
- ・「ほら、こっちへ歩いてくる男の子だよ。」
- ・「ああ、彼は健太君だわ。」

③ **固有名詞**……人名・地名・国名・書名など、特定の物事の名前を表す。

・私は夏目漱石の「坊っちゃん」を四国の旅行中に読んだ。

・日本を代表する古典文学の一つに「源氏物語」がある。

④ **数詞**……物の数量や順序を表す。数字を含む。

・三個で百円のお菓子を買う。

・合唱コンクールで第一位となる。

・一袋が百グラムの砂糖を三つも買ってきた。

・三対二で勝った。

⑤ **形式名詞**……本来の意味が薄れ、常に連体修飾語をつけて使われる。

・ちょうど今着いたところです。

・彼は、来るはずだ。

・彼女の言ったとおりになった。

・ぼやぼやしているうちに、通り過ぎてしまった。

・あなたも行ったほうがいいでしょう。

形式名詞には上にある語の意味を補う働きがあります。

実質的な意味をもたないので、**平仮名**で書きます。

「こと、とき、もの、ところ」などがあります。



③ 次の——線部の名詞の種類をあとのもの中から
選び、記号で答えなさい。

(1) 佐藤さんはどこにでもいる少女の一人だった。
[ウ] [イ] [ア] [エ]

(2) 信号機は赤と青と黄色の三色が順番に変わります。
[ア] [エ]

(3) 「万葉集」は日本で最も古い歌集です。
[ウ] [ア]

(4) 今、社会のテスト問題を解いていたところです。
[ア] [ア] [オ]

(5) まちがいというものは、ないほうがよい。
[ア] [オ] [オ]

(6) 彼は今朝三時に家を出発し、富士山に登った。
[イ] [ア] [エ] [ウ]

(7) 豊橋駅から東海道本線の快速に乗って旅に出た。
[ウ] [ウ] [ア] [ア]

ア	普通名詞	イ	代名詞	ウ	固有名詞
エ	数詞	オ	形式名詞		

2 その他

成り立ちによって次のように種類分けできる普通名詞もあります。

① 転成名詞……他の品詞から変化し、転じてできた名詞

- ・川の 流れが ゆるやかだ。
(動詞 流れる↓流れ)
- ・彼女の 美しさに みとれた。
(形容詞 美しい↓美しさ)
- ・この 穏やかさは 何だ。
(形容動詞 穏やかだ↓穏やかさ)

② 複合名詞……二つ以上の単語が合わさって一語になったもの。

- ・春風 本箱 ガラス窓 夕日
(名詞+名詞)
- ・月見 山登り 夢占い
(名詞+動詞)
- ・歓迎会 聞き手 習い事
(動詞+名詞)
- ・食べ残し 泣き笑い
(動詞+動詞)
- ・浅瀬 大潮 高値 若葉
(形容詞+名詞)
- ・苦笑い 小走り 早咲き
(形容詞+動詞)
- ・白黒 遠浅
(形容詞+形容詞)

③ 接頭語・接尾語がついた名詞……一語として扱う。

- ・ご飯 お茶 御意見 ど根性
(接頭語+名詞)
- ・先生方 母さん 仲間たち
(名詞+接尾語)

4 次の——線を引いた転成名詞のものと語を「」の中に書きなさい。

(1) あの体操選手は、体の動きが実にしなやかだ。

動く

(2) 彼の体は怒りに震えていた。

怒る

(3) 満月の夜の明るさは、想像以上だった。

明るい

(4) 私たちは若さと情熱を武器に戦った。

若い

5 次の文から複合名詞を選び、「」の中に書きなさい。

(1) 妹は最近、星占いに凝っている。

星占い

(2) テレビで紹介されたかき氷のお店を訪ねてみた。

かき氷

(3) 母の趣味はスイーツの食べ歩きだ。

食べ歩き

(4) 冬休みは家族でスキーに行く予定だ。

冬休み

6 次の文から接頭語・接尾語がついた名詞を選び、「」の中に書きなさい。

体言

名詞

・体言は自立語で、活用がなく、「が」「は」「も」などをと
もなつて、主語になることができます。
品詞では、名詞がこれに当たります。

(花が)

きれいに咲きました。

(主語)

用言

形容動詞

形容詞

動詞

・用言は自立語で、活用があり、単独で述語・修飾語になる
ことがあります。

・動詞・形容詞・形容動詞の三つを合わせて用言といいます。

彼は、よく笑う。

(述語)

彼は、よく笑う人だ。

(修飾語)

庭の花が、とても美しい。

(述語)

花が庭に美しく咲いた。

(修飾語)

春の海は、穏やかだ。

(述語)

穏やかな海に春を感じる。

(修飾語)

こう	この	こちら	これ	こ
そう	その	そちら	それ	そ
ああ	あの	あちら	あれ	あ
どう	どの	どちら	どれ	ど
副詞	連体詞	名詞	品詞	

指示語・指示する語をまとめて
「こそあど言葉」といい、次のもの
があります。



7 次の名詞のグループから、種類の違うものをつづ
つつけ、記号に○をつけなさい。(5)は——線部

(1) 今日は弟たちと公園で鬼ごっこをして遊ぶ予定だ。

弟たち

(2) スポーツの名場面が特集されたテレビ番組を見る。

名場面

(1) アパソコン イノート ウプール エエンジン
(2) ア優勝 イ一位 ウ大会 エ野球

(3) ア太平洋 イ日本 ウ大陸 エ北海道

(4) ア歴史 イ社会 ウ教科書 エ鎌倉時代

(5) ア願いごと イ書くもの ウ見ること エ言うとおり

(6) ア父 イ弟 ウ彼 エお母さん

(2) 副詞

- ・牛がのんびり歩いている。
 - ・鈴虫がリーンリーンと鳴く。
 - ・少し待ってください。
 - ・優勝したなんて、まるで夢のようだ。
- 例文の「のんびり」「リーンリーンと」「少し」「まるで」が副詞です。

副詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・様子・状態・程度を表し、主として用言を修飾します。

1 副詞の性質

a 新しい校舎が ついに 完成する。

動詞

b 全校集会は とても なごやかだ。

形容動詞

aの「ついに」という副詞は「完成する」という動詞を修飾しています。また、bの「とても」は「なごやかだ」という形容動詞を修飾しています。

このように用言（動詞・形容詞・形容動詞）を修飾することを連用修飾といいます。

副詞は、主に用言を修飾する連用修飾語になる言葉です。（例外もあります。P13の3を参照）

2 副詞の分類

副詞は、働きの上から次のように分けられます。

ア 状態の副詞（「どのように」という状態を表す）

たしかめ問題

1 次の文から副詞を一つずつ抜き出し、下の「」の中に書きなさい。

- (1) まず失敗することもあるまい。
- (2) 今日もやはり来た。
- (3) 漂流中はさぞつらかったことだろう。
- (4) 大きな石を軽々と持ち上げた。
- (5) 打球がぐんぐん伸びる。
- まず
やはり
さぞ
軽々と
ぐんぐん

2 次の文から、副詞を一つずつ見つけて——線を引き、「」の中にア「状態」、イ「程度」、ウ「呼応」の分類を記号で答えなさい。

- (1) 私は、ゆったり旅行を楽しんだ。
- (2) おそらく彼はやってくるだろう。
- (3) 駅で私はずいぶん待った。
- (4) 彼は目をきらきらさせながら歩いてきた。
- (5) 彼は、ずっと昔からの友達だ。
- ア
イ
イ
ア
イ

3 次の文の——線部の言葉に注意して、「」の中にあてはまる言葉をあとの□の中から選び、書きなさい。

- (1) 明日はたぶん晴れる。
- (2) まさか負けることはある。
- (3) たとえ負け、全力でがんばろう。
- だろう
まい
ても

・ いなかの道はしばらく続いた。
・ 洪水はたちまち家を流した。

・ 子供が笛をプー・プー吹く。

・ 猫がニャーニャーと鳴く。

・ 花びらがひらひら散っている。

※擬音語・擬声語・擬態語は、全て状態の副詞に含まれます。

イ 程度の副詞（「どのくらい」という程度を表す）

・ 今日はかなり寒い。
・ もっと速く走ろう。
・ 作家では夏目漱石がいちばん好きだ。

ウ 呼応の副詞（下に決まった言い方がくる）

・ まるで海のような湖だ。
・ 全然おもしろくない話だ。
・ もし願いがかなうなら、空を自由に飛んでみたい。

3 用言以外を修飾する副詞

副詞は用言だけでなく、場所・方向・時間を表す名詞や副詞を修飾することもあります。

a 休日の 学校は とても 静かだ。

b 魚が とても たくさん 釣れた。

a 救急車を すぐ 呼べ。

b すぐ 先の アパートへ 引っ越した。

呼応の副詞は、
副詞とも呼びます。
副詞の後ろにいつも決
まった言葉を要求します。



形容詞・形容動詞と副詞の見分け方 連体形「―い」「―な」の形を作ってみる。

・ 友達と楽しく話す。 (形容詞「楽しい」の連用形)

・ 友達と愉快地に話す。 (形容動詞「愉快だ」の連用形)

・ 友達とにこにこ話す。 (副詞「にこにこ」)

にこにこ ↓ × にこにこい・×にこにこな

どちらでもない＝副詞

(4) 最近は雨がまったく降ら ない。
(5) もし雨が降らなかつ たら 遠足へ行く。
だろう・ても・ない・たら・まい

4 次の文の——線部の語について、副詞には「ア」、
形容詞には「イ」、形容動詞には「ウ」と、それぞれ
の語の右に記号で答えなさい。

(1) 海岸を美しくしたいと思い、毎日こつこつと、ごみ
を拾い続けた。 [イ] [ア]

(2) にぎやかな街を歩いていると、僕の心もほんわかと
温かくなった。 [ウ] [ア]

(3) 乗組員たちは、たちまち小舟に乗り込み、どんどん
沖へ出ていった。 [ア] [ア]

(3) 連体詞

- ・ある日のことです。
- ・いろいろな花が咲いている。
- ・あれがわが家です。
- ・大きな川が流れている。

例文の「ある」「いろんな」「わが」「大きな」が連体詞です。

連体詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・連体修飾語にしかありません。

1 連体詞の性質

あの人が 山田さんです。

大きな 家を 建てる。

二つの文で共通しているのは、どちらも「人」「家」という名詞を修飾していることです。このように**体言（名詞）**を修飾することを**連体修飾**といいます。連体詞は、その名のとおりに、すぐ下の体言を修飾する**連体修飾語**になる言葉です。

連体詞には、次のようなタイプがあります。

〈形〉

- a 「た（だ）」の形
- b 「の」の形
- c 「——る」の形

〈語例〉

- たいした とんだ たった
- この その あの どの かの 例の ほんの
- ある さる きたる あらゆる いわゆる

たしかめ問題

1 次の単語の中から連体詞を選び、記号に○をつけなさい。

- ア この イ 明るい ウ 元氣な エ いわゆる
- オ あれ カ 大きな キ もっと ク めっきり
- ケ わが コ つまり サ たいした シ あらゆる

2 次の——線部の連体詞が修飾している体言を書きなさい。

- (1) この道をずっとまっすぐ行けば、わが母校に着きます。
① 道 ② 母校

- (2) 話があらぬ方向に進んでしまった。

方向

- (3) 大きな木の下で、仲よく遊びましょう。

木

3 次の文から連体詞を一つずつ抜き出し、下の「」の中に書きなさい。

- (1) きたる二十日に体育大会が行われる。

きたる

- (2) 届かないとは、おかしい話だ。

おかしい

- (3) どの人に行ってもらおうか。

どの

d 「—な」の形
e 「—が」の形

大きな 小さな いろんな おかしな
わが

※例外として「あらぬ」のようなものもあります。

「ただの・る・な・が」
(織田信長)と覚えると
覚えやすいですよ。

2 連体詞と他の品詞との識別

① 「ある」の識別

- ・ある田舎町のできごとだった。
- ・彼は経済力のある人だ。

「ある」には、**連体詞**と**動詞**があります。識別のしかたは、次のとおりです。

① 連体詞……体言を修飾する連体修飾語で、活用しない。

② 動詞……「存在する」意味で使われ、活用する。

※動詞の場合は「ない」に置き換えられます。

連体詞
動詞



② 「大きな」と「大きい」の識別

- ・大きな木のある庭。
- ・大きい木のある庭。

連体詞
形容詞

「大きな」と「大きい」は、右の例文のように同じ意味で使われます。しかし、「大きい」は**形容詞**で活用し(P23参照)、「大きな」は**連体詞**で活用しません。同様に、次の言葉についても、連体詞と形容詞の区別をします。

- ・小さな (連体詞) 小さい (形容詞)
- ・おかしな (連体詞) おかしい (形容詞)

- (4) これくらいならたいしたことはない。
- (5) ある朝、私は決心した。

たいした
ある

4 次の——線部の中から連体詞を一つ選び、記号で答えなさい。

ア さる十五日、花火大会が行われた。

イ 今朝は、穏やかな日になった。

ウ 私は小さい犬が欲しい。

エ そんなおもしろい話は聞いたことがない。

ア

「穏やかな」の言い切る形は、どうなるでしょう。言い切る形が「—だ」となる言葉は、形容動詞ですよ。



5 次の——線部の単語について、それぞれ品詞名を書きなさい。

(1) その博物館には、たいへん珍しい標本がある。

(2) 将来、あらゆる国へ行ってみたいと思う。

(3) 細かいところまで、ていねいに色をぬろう。

(4) 街角である人に道を尋ねられた。

(1) 動詞

(2) 連体詞

(3) 形容詞

(4) 連体詞

(4) 接続詞

- ・学校へ行き、それから図書館へ行く。
 - ・彼女は出かけた。しかし、私は家にいた。
- 例文の「それから」「しかし」が接続詞です。

接続詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・それだけで接続語になります。

接続詞は、前後の文や語をつなぐ働きをする単語で、次のような種類があります。

種類	働き	接続詞
順接	前に述べたことが、あとに述べることの原因・理由となる。	それで・そこで・すると・したがって・それゆえ・ゆえに・だから
逆接	前に述べたこととは逆になることがあとにくる。	しかし・だが・けれども・ただ・でも・ところが・が・それでも
並列・累加	前に述べたことと並べたり、それにつけ加えたりする。	そして・また・それから・および・なお・さらに・しかも
対比・選択	前に述べたことと比べたり、どちらか選んだりする。	または・あるいは・もしくは・それとも・いっぽう
説明・補足	前に述べたことをまとめたり、補ったりする。	つまり・すなわち・ただし・なぜなら・例えば
転換	前に述べたことと話題を変える。	さて・ところで・では・ときに

たしかめ問題

■ 次の——線部は、どんな種類の接続詞か。あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) マラソンはつらい。だが、走り終わった後の気分は実にいい。 [イ]

(2) この用紙は、ボールペンまたは鉛筆を使って書きなさい。 [エ]

(3) 多数決の結果、杉山君の案が選ばれました。それでは、次の議題に移ります。 [カ]

(4) 昨日、ひなが一羽かえった。そして、今日、また一羽がかえった。 [ウ]

(5) 今日は天気がいい。だから、遠足に行く。 [ア]

(6) 私は、早く家に帰らなければならない。なぜなら、習いごとがあるからだ。 [オ]

ア	順接	イ	逆接	ウ	並列・累加
エ	対比・選択	オ	説明・補足	カ	転換

(5) 感動詞

・まあ、きれいな花だこと。
「まあ」のように、心が動いたときに思わず出る言葉があります。このような感動や呼びかけを表す言葉を感動詞と呼びます。

感動詞とは

- ・自立語で、活用がありません。
- ・主語、述語、修飾語、接続語とならず、単独で独立語になります。

しかし、感動を表す言葉だけが感動詞ではありません。感動詞には、次に示すような種類があります。

応答

はい、こちらは鈴木です。
いや、その道は違うよ。

呼びかけ

おい、こちらへ来い。
もしもし、鈴木さんのお宅ですか。

感動

ああ、すばらしい景色だ。
おや、何か変だぞ。

挨拶

こんにちは、ごきげんいかがですか。
さようなら、お元気で。

挨拶は感動詞です。
感動詞は文の初めに
くることが多いですよ。



たしかめ問題

1 次の文から感動詞を見つけて——線を引きなさい。
また、それがあとの□のどれにあたるかを選び、
記号で答えなさい。

- (1) ほら、見てごらん。きれいな夕焼けだよ。
(2) いいえ、私は鈴木ではありません。
(3) 弟は手を振って叫んだ。「バイバイ。」
(4) ねえ、宿題を終わらせたら遊びに行こうよ。
(5) おや、あなたは佐藤さんではありませんか。
- ウ イ エ ア イ

ア 応答 イ 呼びかけ ウ 感動 エ 挨拶

2 次の「」にあてはまる語をあとの□から選
び、記号で答えなさい。

- (1) 「エ」、お弁当を忘れてしまった。
(2) 用意はいいですね。「ウ」、始めましょう。
(3) 「イ」、そこで何をしているの。
(4) 「ア」、ちゃんと受け取りました。

ア はい イ おうい ウ さあ エ あっ

Ⅲ 用言の活用

学習のねらい

★それぞれの「用言」はどのように活用するのかわかるように理解する。

一 動詞

・手紙を書く。 朝早く起きる。
 ・背が伸びる。 洗たく物が乾く。
 ・猫がいる。 本がある。

例文の「書く」「起きる」「伸びる」「乾く」「いる」「ある」が動詞です。

(動作)
 (変化)
 (存在)

動詞とは

・自立語で、活用があり、言い切りが「ウ」段の音になります。
 ・物事の動作・変化・存在を表し、単独で述語や修飾語になることができます。

動詞と、次に学習する形容詞・形容動詞をあわせて用言といいます。(P11参照)

(1) 動詞の活用

読む

まだその本を読(ま)ない。
 僕は本を読(み)ます。
 彼も本を読(む)。
 よく本を読(む)人である。
 本をよく読(め)ば知識が広がる。
 たくさんの本を読(め)う。
 たくさん本を読(も)う。

たしかめ問題

1 次の——線部の動詞を言い切る形に直しなさい。

(1) 机の上に置いたはずの本が見つからない。 置く 見つかる

(2) 彼に会ったときに、「明日は早く来いよ。」と言われた。 会う 来る 言う

(3) 「よく学び、よく遊べ」が祖父の口癖であった。 学ぶ 遊ぶ ある

2 次に示す単語を活用させて、——の中に適切な言葉を平仮名で書きなさい。ただし、*は命令する形で書きなさい。

(1) 吹く

・夜に口笛を吹(か)ない。

・私は音楽会でトランペットを吹(き)ます。

・僕は、毎年お祭りで笛を吹(く)。

・楽器を吹(く)ときは扉を閉めよう。

・風が吹(け)ば桶屋(おけ)がもうかる。

*指揮をよく見て吹(け)。

・みんなで一緒にリコーダーを吹(こ)う。

動詞は、右の例文のようにあとに続く言葉や、文中での働きによって、単語の終わりの（ ）部分が「ま・み・む・め・も」のように規則的に変化します。これを活用といいます。活用のかたは動詞によって異なります。

1 語幹と語尾

動詞をいろいろ活用させたとき、常に変化しない部分を語幹といい、変化する部分を活用語尾といいます。

2 活用形

活用によって変化した単語の形を活用形といいます。動詞の活用形は、あとに続く形や言い切る形により、次の六つに分けられます。

「話す（はなす）」の活用

活用形	語幹	活用語尾
未然形	はな	そさ
連用形		し
終止形		す
連体形		す
仮定形		せ
命令形		せ

主な続き方（下に続く言葉）

未然形：ない（ぬ）・う・よう・れる・られる・せる・させる

連用形：用言・ます・た（だ）・て（で）・ら・たい・ながら・ても

終止形：言い切る形・と・から・が・けれど

連体形：体言・とき・ので・のに

仮定形：ば（もし・ば）

命令形：命令して言い切る形

例

間に合わないと思っても、走れば間に合うことがあるから走れ。

「間に合う」の未然形

「走る」の仮定形

「ある」の終止形

「思う」の連用形

「間に合う」の連体形

「走る」の命令形

(2) 起きる

・時間になっても弟はまだ起きない。

・母はいつも早く起きます。

・僕は六時に起きる。

・早く起きるときは調子がいい。

・早く起きれば、余裕がもてる。

*早く起きろ。（きよ）。

3 次の線部の動詞を選び、記号で答えなさい。

(1) 話す

ア 久しぶりに会ったこと話す。

イ 落ち着いて話せば、伝わるよ。

ウ 僕は誰にも秘密を話さない。

エ 君たちに大事なことを話します。

(2) 書く

ア 母への感謝の手紙を書いた。

イ 読みやすい字で書こう。

ウ 原稿用紙五枚を書く。

エ 手帳に書けば、忘れない。

4 次の線部の動詞の活用形を「 」に書きなさい。

(1) 新聞を見れば、試合の結果がわかる。

仮定形

(2) 犬を飼うことを、父が許してくれた。

連体形

(3) まだ見ぬわが子への愛を詩につづる。

未然形

(4) 強風でも、親鳥はえさを求めて飛ぶ。

連用形

(2) 動詞の活用の種類

日本語のかなを、その音をもとにして並べた図を五十音図と呼びます。この図の縦の並びを行(ぎょう)といい、横の並びを段(だん)といいます。

動詞の活用のしかたは、この五十音図をもとに、次の五種類に分けられます。

1 五段活用(五段)

五十音図のア・イ・ウ・エ・オの五つの段に沿って変化します。例えば、「吹く」は(カキクケコ)で、活用するので五段活用といえます。左の図のように、活用形をまとめて一つの表にしたものを活用表といえます。

行	ア	イ	ウ	エ	オ
ナ行	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
タ行	タ	チ	ツ	テ	ト
サ行	サ	シ	ス	セ	ソ
カ行	カ	キ	ク	ケ	コ
ア行	ア	イ	ウ	エ	オ

五段	活用種類	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
吹く	五段	吹く	吹く	吹かない・ぬ	吹きます	吹く。	吹くとき	吹けば	吹け
ふ	五段	ふ	ふ	ふない・ぬ	ふます	ふ。	ふとき	ふば	ふけ
こ	五段	こ	こ	こない・ぬ	こます	こ。	ことき	こば	こけ
い	五段	い	い	いらない・ぬ	います	い。	いとき	いば	いけ
く	五段	く	く	くない・ぬ	くます	く。	くとき	くば	くけ
け	五段	け	け	けらない・ぬ	けます	け。	けとき	けば	けけ
け	五段	け	け	けらない・ぬ	けます	け。	けとき	けば	けけ

五段活用だけにある音便(おんびん)

五段活用(サ行以外)の連用形は、「た(だ)・て(で)・たり(だり)」がつくとき、発音しやすいように音が変化する場合があります。これを音便といえます。

・イ音便……………「く・ぐ」などで終わる動詞 ※例外もあります

・促音便(「っ」)……………「う・つ・る」などで終わる動詞

・撥音便(「ん」)……………「む・ぬ・ぶ」などで終わる動詞

例 咲きて↓咲いて
例 乗りて↓乗って
例 遊びて↓遊んで

たしかめ問題

1 次の五段活用動詞の活用表を上表にならって平仮名で書いて完成させなさい。

基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
読む	読む	読まない・ぬ	読ます	読む。	読むとき	読めば	読め
走る	走る	走らない・ぬ	走ります	走る。	走るとき	走れば	走れ
飛ぶ	飛ぶ	飛ぶない・ぬ	飛びます	飛ぶ。	飛ぶとき	飛べば	飛べ
置く	置く	置かない・ぬ	置きます	置く。	置くとき	置けば	置け
従う	従う	従わない・ぬ	従います	従う。	従うとき	従えば	従え

2 次の線部の文節を音便に注意して正しく直しなさい。

(1) 知らせを聞きて、私はすっかりあわてた。

聞いて

(2) 決勝戦を勝ちて、優勝したいものだ。

勝って

(3) 封筒から手紙を出して、すぐに読みた。

読んだ

2 上二段活用（上二段）

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ上にある「イ段」の音で活用します。

3 下二段活用（下二段）

五十音図のまん中にある「ウ段」の一つ下にある「エ段」の音で活用します。

4 力行変格活用（力変）

他には類のない特別な活用をするので、力行変格活用（力変）といえます。力変の動詞は「来る」の一語だけです。「来る」は、語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

5 サ行変格活用（サ変）

サ行変格活用も、もともと「する」の一語だけです。漢語や外来語に「する」が複合した場合（複合動詞）も、サ変の動詞になります。
漢語＋「する」……勉強する・運動する
外来語＋「する」……スケッチする・メモする
サ変の動詞は、語幹自体が変化するので、語幹と活用語尾の区別がありません。

活用の種類	基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
上二段	信じる	しん	じ	じ	じる	じる	じれ	じろ じよ
下二段	考える	かんが	え	え	える	える	えれ	えよ えろ
力行変格	来る	こ	き	き	くる	くる	くれ	こい しろ
サ行変格	する	○	させし	し	する	する	すれ	せよ しろ

※サ変の未然形「さ」には、「れる」「せる」が続きます。

3 次の動詞の活用表を上表にならって平仮名で書いて完成させなさい。

サ行変格	カ行変格	下一段	下一段	上一段	上一段	活用の種類	
する	来る	寝る	助ける	見る	生きる	基本形	
○	○	(ね)	たす	(み)	い	語幹 主な 続き方	活用形
させし	こ	ね	け	み	き	い ないぬ うよう れるるる せるせる	未然形
し	き	ね	け	み	き	ます た(だ) て(て)	連用形
する	くる	ねる	ける	みる	きる	。	終止形
する	くる	ねる	ける	みる	きる	とき のて	連体形
すれ	くれ	ねれ	けれ	みれ	きれ	ば	仮定形
せよ しろ	こい	ねよ ねろ	けよ けろ	みよ みろ	きよ きろ	命令の意味で 言い切る	命令形

※「見る」や「寝る」のように、上二段・下二段の動詞には、語幹と活用語尾が区別できないものもあります。

活用の種類の見分け方

① 力行変格活用

……「来る」の一語だけ。

② サ行変格活用

……「する」と「くする」

③ 動詞の未然形に接続する

「ない」をつけたときの、活用語尾で見分けます。そのす

ぐ前の音に目を向けます。



動詞の活用の種類の見分け方（動画）

五段	上二段	下二段
ない	ない	ない
かき	きく	けく
書	起	受
ア	イ	ウ
エ	オ	



練習問題に取り組もう

基本問題

1 次の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

(五段・上一段・下一段・力変・サ変の略称でよい)

(1) 兄は希望の高校へ進学する。

サ変

下一段

五段

五段

(2) ピッチャーが投げるカーブを打ち込んで勝った。

上一段

力変

(3) 背広を着た男性が向こうから来る。

五段

五段

下一段

(4) そのくらいの本は、読もうと思えば読める。

2 次の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

仮定形

終止形

(1) 野山を歩けば、気持ちもさわやかになる。

連用形

連用形

(2) 太陽の光を浴びて、暖かく感じた。

未然形

命令形

(3) 逃げないで、現実をしっかりと見つめろ。

連体形

終止形

命令形

(4) 勉強するときはテレビは消すと決めよ。

活用の種類は、P21の「活用の種類の見分け方」を見て考えましょう。
活用形は、P19の表を参考に、下に続く言葉から考えましょう。

発展問題

1 次の文章中から動詞を八つ見つけ、——線を引きなさい。また、——線の終止形を書きなさい。

「努力すれば何でもできる。」兄はいつもこう言って私を励ましてくれた。すぐにあきらめてしまう私は、兄の言葉に何度も勇気づけられた。

努力する	できる	言う	励ます
くれる	あきらめる	しまう	勇気づける

2 次の——線部の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

(1) 吹く風に秋の訪れが感じられる。

(2) 「早く来い。」と、父が言った。

(3) もっと勉強すれば、成績は上がる。

(4) 朝ごはんを食べないで学校に来た。



動詞の活用の種類・活用形
練習問題

ア	五段	活用	連体形	イ	上一段	活用	未然形
ウ	力行変格	活用	命令形	エ	五段	活用	連用形
オ	サ行変格	活用	仮定形	カ	五段	活用	終止形
キ	下一段	活用	未然形	ク	力行変格	活用	連用形

二 形容詞・形容動詞

(1) 形容詞・形容動詞の活用

形容詞・形容動詞は同じ性質をもっているので、**区別はほとんどありません**。しかし、活用のしかたに違いがあるので、独立した品詞として考えます。

1 形容詞

- ・海はとても**広**かった。
 - ・彼は**優**しい。
 - ・暗い**夜**道を歩く。
 - ・砂糖で**甘**く煮る。
- 例文の「**広**かつ」「**暗**い」「**優**しい」「**甘**く」が形容詞です。

形容詞とは

- ・自立語で、**活用があり**、言い切りが「**い**」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、**単独で述語や修飾語**になります。

① 形容詞の活用

基本形	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	語幹	主な 続き方						
明るい	明る		かる	う く た か つ ない ご ざ い ま す	い	い	けれ	○

※形容詞の活用の種類……一種類だけで、命令形はありません。

② 形容詞の音便

- ・今年の夏は**暑**うございます。
- ・この料理は、おいしくうございます。(おいしく↓おいしう)
- 「暑う」のように、形容詞の連用形に「ございます・ぞんじます」が続くとき、**連用形語尾の「く」が「う」に変わる**ことがあります。これを**ウ音便**といいます。
- 「おいしう」のように、語幹が変化することもあります。

たしかめ問題

1 次の単語の中から形容詞を選び、記号に○をつけなさい。

- ア おいしく イ 細かい ウ おかしな
エ 小さな オ 争い カ ほしい
キ よい ク 細かな ケ あたたかい

2 次の——線部の形容詞の活用形を答えなさい。

- (1) 自分は新しい可能性を見つけたい。 連体形
(2) 君がいなくなると、さぞ寂しかろう。 未然形
(3) 忘れ物に気づいたときには、もう遅かった。 連用形

- (4) 試合に負けて悔しかれば、より練習に励もう。 仮定形
(5) 君の言葉は何よりも頼もしい。 終止形

3 次の文章から形容詞を四つ見つけて——線を引きなさい。

中学校生活を振り返ると、楽しかったこと、つらかったことが入り混じってよみがえってくる。
学習面や友人関係に悩むことも多くあった。しかし、仲間とともに過ごした日々は、美しい思い出として、いつまでも私の心に残り続けるだろう。

2 形容動詞

- ・きれいな教室に入る。
(状態)
- ・彼はほがらかだ。
(性質)

例文の「きれいな」「ほがらかだ」が形容動詞です。

形容動詞とは

- ・自立語で、活用があり、言い切りが「だ・です」になります。
名詞に続く形が「な」になります。
- ・事物の状態や性質を表し、単独で述語や修飾語になります。

① 形容動詞の活用

基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
静かだ	静か	だろ	だっ	だ	な	なら	○
静かです	静か	でしょ	でし	です	(です)	○	○

※形容動詞の活用……一種類だけ(丁寧な言い方では「です」で終わる)で、命令形はありません。

② 形容動詞の語幹の用法

- ▼語幹だけで言い切ることがあります。(「だ」を省略した形)
・まあ、きれい。
・これは、立派。
- ▼語幹だけを名詞として用いることがあります。
・小さな親切が、感謝された。
- ▼形容詞と形容動詞のどちらの語幹にもなるものがあります。

・あたたか
だ (形容動詞)
い (形容詞)

4 次の——線部の形容動詞の活用形を書きなさい。

(1) どうしても必要ならば、申し出てほしい。

〔仮定形〕

(2) なんてきれいな夕日だろう。

〔連体形〕

(3) 与えられた仕事をそろそろにはいけない。

〔連用形〕

(4) 洗い立てのシャツは柔らかで、気持ちがいい。

〔連用形〕

(5) 急に色が変われば不思議だろう。

〔未然形〕

(6) この皮の表面はとてもなめらかだ。

〔終止形〕

5 次の文章中から形容動詞を四つ見つけて——線を引きなさい。

夏休みは楽しいことが多い。太陽の下、暑さなんか忘れて公園へ行くと、そこには元気で陽気な仲間がいる。顔を赤くしながら鬼ごっこをしたり、木陰でにぎやかに語り合ったりする時間がたまらなくうれしかった。大人になっても、このような時間は必要だろう。





総合問題

1 次の文から名詞を見つけて——線を引きなさい。また、の中からあてはまるものを選び、それぞれの記号を——線の右に書きなさい。

A	普通名詞
B	代名詞
C	固有名詞
D	数詞
E	形式名詞

(1) 雪が解け、ようやく北海道にも春がやってきた。

(2) ダニエルが言ったとおりでした。

(3) 新しい卵を十箱、岡崎のスーパーマーケットに届けた。

(4) どこへ行ったって、地平線など見ることはできない。

(5) それは彼女のおばあさんから聞いた話です。

(6) この本は、だれのですか。

2 次の各組の文で——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の家には、小さな庭がある。
イ 彼の家には、小さい庭がある。
連体詞

(2) ア ある朝、珍しい色の花が咲いた。
イ 机の上には、一枚の葉書が置いてある。
連体詞

(3) ア こちらはさる高貴なお方にさしあげる品物だ。
イ 私は「去る者は追わず」と思っている。
動詞

(4) ア あの、今何時かわかりますか。
イ あの場合はもう一度見てみたい。
感動詞

3 次の「」にあてはまる接続詞をあとの一から選び、記号で答えなさい。

(1) 東京に行った。
「」、横浜にも行った。

(2) 雨が降ってきた。
「」、大会は続けられた。

(3) 涼しくなったね。
「」、今日は何の用ですか。

(4) 剣道を続けるか。
「」、野球をやるか。

ア	だから	イ	しかし	ウ	また
エ	それとも	オ	つまり	カ	ところで

4 次の文章中から形容詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) 私は中学生のころ、南極の写真を見て、大きくなったら南極の自然を研究したいと思った。たとえそれまでの道のりがどんなに遠かろうと、その夢を追い続けたいと考えている。

(2) 怖かったね。もっと明るければ安心だけど、真っ暗な夜道は危ないよね。

(3) 彼のおじさんは、先日、湖に近い森に入り、太くて丈夫な杉の木を切りました。

(3)	(2)		(1)
近い	危ない	怖かつ	大きく
連体	終止	連用	連用
形	形	形	形
太く		明るけれ	遠かる
連用		仮定	未然
形		形	形

5 次の各組の文で——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の証言にはおかしな点がいくつかある。
イ 彼の証言にはおかしな点がいくつかある。

連体詞
形容詞

(2) ア あの海は、昔とても美しかった。
イ あの海は、昔とてもきれいだった。

形容詞
形容動詞

6 次の文から形容動詞を抜き出し、その活用形を書きなさい。

(1) ロマンチックな映画だったが、ストーリーは複雑だった。

(2) 朝からさわやかなあいさつをして、元気に登校しましょう。

(3) 彼らが真剣ならば、予選通過は簡単だろう。

(3)	(2)	(1)
真剣なら	さわやかな	ロマンチックな
仮定	連体	連体
形	形	形
簡単だろ	元気に	複雑だつ
未然	連用	連用
形	形	形

7 次の各組の文で——線部の語の品詞名を書きなさい。

(1) ア 彼の表情が徐々に柔らかくなってきた。
イ 彼の表情が徐々に柔らかくなってきた。

形容詞
形容動詞

(2) ア 彼にとって大切な仕事である。
イ 彼にとって大きな仕事である。

形容動詞
連体詞

(3) ア 電車は駅をすでに出了あとだった。
イ 電車は駅を静かに出了あとだった。

副詞
形容動詞

IV 付属語

学習の
ねらい

★ 助動詞・助詞はどのように分類され、それぞれの
ような働きをするのかを理解する。

一 付属語の種類

(1) 助動詞

- 例 私 は 詩 を 書く。
- (1) 私 は 詩 を 書 かない。
「ない」を加えて意味を否定する。
- (2) 私 は 詩 を 書 きます。
「ます」を加えて丁寧な表現にする。
- (3) 私 は 詩 を 書 きたい。
「たい」を加えて希望を表す。
- (4) 私 は 詩 を 書 いた。
「た」を加えて過去のことを表す。

例のように、「ない」「ます」「たい」「た」などの単語をつけ加えることによって、「書く」にいろいろな意味を添えることができます。これらの単語を助動詞といいます。

助動詞とは

- ・ 付属語で、活用があります。
- ・ 用言・体言や他の助動詞などについて、意味をつけ加えたり、話し手・書き手の気持ちや判断を表したりします。

- (1) 彼も本を読みたかろう。(未然形)
- (2) 彼は本を読みたかった。(連用形)
- (3) 私は本を読みたくなる。(連用形)
- (4) 私は本を読みたい。(終止形)
- (5) これは私の読みたい本だ。(連体形)
- (6) 本が読みたければ図書館へ行け。(仮定形)
- このように、「たい」という助動詞は、形容詞とよく似た活用をします。ほかにも動詞や形容動詞に似た活用をしたり、独自の活用をしたりする助動詞があります。

たしかめ問題

1 次の動詞を例にならって平仮名で空らんに書きなさい。

	例	読む	せる・させる (使役)	れる・られる (受け身・可能・尊敬・自発)	う・よう (意志)
(1)	行く	いかせる	よませる	よまれる	よもう
(2)	着る	きさせる		きられる	きよう
(3)	食べる	たべさせる		たべられる	たべよう
(4)	する	させる		される	しよう
(5)	来る	こさせる		こられる	こよう

2 次の文の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 私の家のねこが、急に姿を消した。
- (2) 父は、急用ができて東京に出かけるらしい。
- (3) 日本には、外国からの輸入品がたくさんあります。
- (4) 母は、絶対に飛行機に乗らないと言っているそうだ。

勧誘 意志 推量		否定 (打ち消し)		希望		使役 (しえき)		自発	尊敬	可能	受け身	意味
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる			基本形
投げよう	行こう	知らぬ	知らない	見たがる	覚えたい	やめさせる	働かせる	投げられる	聞かれる			用例
○	○	○	なかる	たがら	たかろ	させ	せ	られ	れ			未然形
○	○	ず	なかつ	たがり	たかつ	させ	せ	られ	れ			連用形
よう	う	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる			終止形
(よう)	(う)	ぬ(ん)	ない	たがる	たい	させる	せる	られる	れる			連体形
○	○	ね	なけれ	たがれ	たけれ	させれ	せれ	られれ	れれ			仮定形
○	○	○	○	○	○	させよ	せよ	られよ	れよ			命令形

助動詞は、それぞれこの活用表のように活用します。参考にしましょう。



断定	否定の推量	否定の意志	伝聞 (でんわん)	推定 様態	推定 比喻	推定	丁寧	想起	存続	完了	過去	意味
です	だ	まい	そうです	そうです	ようです	らしい	ます					基本形
学校です	学校だ	行くまい	降るそうです	降りそうです	降るようです	雨らしい	始まります					用例
でしょ	だろ	○	○	○	○	○	ましよ					未然形
でし	で だっ	○	○	○	○	○	まし					連用形
です	だ	まい	そうです	そうです	ようです	らしい	ます					終止形
(です)	(な)	(まい)	(そうです)	(そうです)	(ようです)	(らしい)	ます					連体形
○	なら	○	○	○	○	○	ますれ					仮定形
○	○	○	○	○	○	○	(まし)					命令形

① れる・られる

受け身、可能、尊敬、自発の助動詞

- ・友達に慕われる。
- ・友達から教えられる。

受け身（「〜に〜される」の意味を表す）

- ・すぐに覚えられる。

可能（「〜することができ」の意味を表す）

- ・先生が本を読まれる。
- ・おじさんが来られる。

尊敬（「〜なさる」という、他を敬う意味を表す）

- ・故郷が思い出される。
- ・父のことが案じられる。

自発（「自然に〜する」の意味を表す）

最近増えている話し方に、

「すぐに覚えれるよ。」「君にも見れるよ。」

があります。これらをいわゆる「ら抜き言葉」といいます。本来は「覚えられる」「見られる」です。

五段活用とサ行変格活用は「れる」、その他の活用は「られる」が続きます。

② せる・させる

使役（人に命じてさせる意味）の助動詞

- ・本を読ませる。
- ・すぐに彼を行かせます。

- ・もう少し詳しく調べさせる。
- ・明日は彼女にも来させよう。



たしかめ問題

1 次の——線部の「れる」「られる」は、A 受け身 B 可能 C 尊敬 D 自発のどれにあたるか、記号で答えなさい。

- (1) 一時間ぐらいでふもとまで下りられる。
 - (2) 写真を見ると母のことが案じられる。
 - (3) ぼんやりしていて、人に追い越される。
 - (4) 社長はときどき目をつぶって考えられる。
 - (5) 先生から頼りになるとほめられた。
 - (6) 思い出されるのは、あの山の風景だ。
 - (7) 友に支えられて、ここまでやってきた。
- A D A C A D B

2 次の——線部を助動詞を使って、使役の意味になるように書き直しなさい。

- (1) すぐにやめるように指示をした。
 - (2) これを見るとよい。
 - (3) 三時に来れば間に合う。
 - (4) 熱があるので薬を飲む。
 - (5) 今から勉強します。
- やめさせる
見させる
来させれ
飲ませる
勉強させ

「れる」「られる」と同じように、五段活用とサ行変格活用は「せる」、その他の活用の種類には「させる」が続きます。「見せる」「着せる」などはそれだけで一つの動詞です。



③ たい・たがる 希望の助動詞

- ・私はカレーライスが食べたい。
(自分が希望する意味を表す)
- ・弟はしきりに帰りたいがる。
(第三者が希望する意味を表す)

④ ない・ぬ(ん) 否定(打ち消し)の助動詞

- ・もう一か月も雨が降らない。
- ・雨の降らぬ月はない。

否定の助動詞「ない」は、「ぬ」に置き換えられます。
形容詞の「ない」と区別しましょう。

「ない」の識別

- ① 今日は宿題がない。(形容詞)
- ② 今日は宿題が多く(は)ない。(補助形容詞)
- ③ 今日の宿題はわからない。(助動詞)

⑤ う・よう 推量、意志、勧誘の助動詞

- ・彼も行きたいだろう。
(推量の意味を表す)
- ・早く起きようと思う。
(意志の意味を表す)
- ・さあ、外に出かけよう。
(勧誘……誘いかける意味を表す)



3 次の文の「」に希望の助動詞を入れ、文を完成させなさい。

- (1) こんなに走り続けたら、水が飲み「たく」なる。
- (2) テレゲームで遊び「たい」が、勉強しよう。
- (3) 外国人が写真を撮り「たがっ」ている。
- (4) うちのポチがごはんを食べ「たがら」ないの。

4 次の文の否定の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 大切なことは言わなければわからない。
- (2) 練習せず「に」勝てるわけがない。
- (3) 約束は守らねばならない。
- (4) 知らぬが仏とはよく言ったものだ。
- (5) 中学生になると外で遊ばなくなる。
- (6) 山頂の宿で流れ星を見なかったことはない。

5 次の——線部の助動詞の意味を書きなさい。

- (1) 君もいっしょに遊ぼう。
(勧誘)
- (2) 宿題を終わらせてからテレビを見ようと思う。
(意志)
- (3) 練習はこれからますます厳しくなるだろう。
(推量)

⑥ た(だ)

過去、完了、存続、想起の助動詞

- ・昨日まで元気だったのに。
- ・いま、着いたばかりである。
- ・こわれた筆箱がある。
- ・これは君のだったね。

(過去 過ぎ去った動作や現象を表す)
(完了 たった今動作が完結したことを表す)
(存続 「〜ている」「〜である」、その状態が今も
続いているという意味を表す)
(想起 過去にあったことを思い起こすという意味
を表す)

⑦ ます

丁寧の助動詞

- ・必ずお知らせします。

「**ます**」の命令形「**ませ**」
「ませ」は、「いらつしやる・
おつしやる・くださる・なさる」
など、敬意を表す語につきます。
例 いらつしやいませ。

⑧ らしい

推定の助動詞

- ・明日はどうかやら雨らしい。

「あの子の行動はいかにも子ども
らしい」の「らしい」は形容
詞「子どもらしい」の語尾です。



6 次の例の——線部「た」と同じ意味のものを一つ選
び、記号で答えなさい。

例 窓辺に置かれた花が美しい。 ※存続

ア 昨夜はとても暑かった。

イ あなたは、鈴木さんでしたね。

ウ 壁にかけられた絵を鑑賞する。

エ ちょうど今、作品ができたところです。

ウ

7 次の——線部で推定の助動詞でないものを一つ選
び、記号で答えなさい。

ア だれも原因を知らないらしい。

イ 彼女が、どうやらリーダーらしい。

ウ 彼の研究への姿勢はとても学者らしい。 ※形容詞の語尾

ウ

8 次の例の——線部を助動詞を使って次の(1)～(5)の意
味に直しなさい。

例 彼は、プールに入る。

(1) 丁寧の意味を表すように。

入ります

(2) 希望の意味を表すように。

入りたい

(3) 過去の意味を表すように。

入った

(4) 否定の意味を表すように。

入らない・入らぬ

(5) 推定の意味を表すように。

入るらしい
入るようだ・入りそう

⑨ ようだ・ようです 推定、比喩の助動詞

- ・ どうやら性格はまじめなようだ。(推定の意味を表す)
- ・ まるで花が咲いたようだ。(比喩の意味を表す)

⑩ そうだ・そうです 推定・様態 (物事の様子や状態から推し量る) の助動詞

伝聞 (他の人から聞いたこと) の助動詞

- ・ 明日は雨が降りそうだ。(推定・様態の意味を表す)
- ・ 明日は雨が降るそうだ。(伝聞の意味を表す)

⑪ まい 否定 (打ち消し) の意志、否定の推量の助動詞

- ・ もう決して泣くまい。(否定の意志「くならないようにしよう」の意味を表す)
- ・ 明日は雨は降るまい。(否定の推量「くわないだろう」の意味を表す)

⑫ だ・です 断定 (物事を確かなこととして言い切る意味) の助動詞

- ・ これは教科書で、あれがノートだ。
- ・ おじさんは狩りの名人です。

「だ」を「な」に置き換えられるのが形容動詞です。
・ 昨日、公園で遊んだ。(過去の助動詞「た」)
・ 今夜はとても静かだ。(形容動詞の語尾)



9 次の——線部の助動詞をA推定の助動詞とB比喩の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 彼女のようなよい人はいない。 B A B
- (2) 事件のことをみんな知っているようだ。 B A B
- (3) この寒さは冷蔵庫の中にいるようだ。 B A B

10 次の——線部の助動詞をA推定・様態の助動詞とB伝聞の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

- (1) 来月くらいから寒くなりそうだ。 A B A
- (2) もうすぐ彼も来るそうだ。 A B A
- (3) 彼ならできそうなので、任せよう。 A B A

11 次の——線部の助動詞の意味を選び、記号で答えなさい。

- (1) 彼は少しも笑わない。 A
- (2) あの人ほど速くは走れません。 A
- (3) そんなことはあるまい。 U
- (4) 仕事をせねば、生活が成り立たぬ。 A
- (5) もうあの本は読ままい。 I
- (6) さよならも言わずに彼は去っていった。 A

12 次の——線部で断定の助動詞を三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼は僕の親友だ。 I 彼女はとても親切だ。
ウ こは居間で、向こうが台所だ。 エ 湖は静かだった。
オ 彼女は以前、医者だった。 カ 昨日、庭で転んだ。

ア・ウ・オ

(2) 助詞

犬（ ） 猫（ ） 追いかけた。

右の（ ）の中にはどんな言葉が入るのでしょうか。

(1) 犬(が)猫(を)追いかけた。

(2) 犬(を)猫(が)追いかけた。

このように、（ ）に入れる言葉によって、追いかける側と追いかける側が逆転してしまいます。「が」や「を」は、語句と語句がどのような関係にあるのかを示しているのです。

この「が」「を」のような言葉を助詞といいます。

助詞とは

・ 付属語で、活用がありません。

・ 語句と語句の関係を示したり、いろいろな意味をつけ加えたりします。

種類

① 格助詞……主として体言につく。

例 の、が、を、に、へ、と、から、より、で、や

② 副助詞……いろいろな語句につく。

例 は、も、こそ、さえ、でも、だって、まで、しか、だけ

③ 接続助詞……主として用言や助動詞につく。

例 ば、と、ので、から、が、けれど、のに、ても、て、ながら

④ 終助詞……文や文節の終わりにつく。

例 か、の、かしら、な、ね、さ、よ、や、ぞ、わ



2の問題の解説

たしかめ問題

1 次の文の助詞に——線を引きなさい。

彼は胸のポケットから、古い大きな万年筆と小さな紙切れを取り出して、メモをしながら私の話を聞いていたよ。

2 次の——線部の助詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。

- (1) 今度こそ勝ちたい。
- (2) こんなやり方でいいのか。
- (3) 私もそう思います。
- (4) この手紙を持っていく。
- (5) 辛いけれど、完食した。
- (6) 先生が姉と話をする。
- (7) 私は大声で叫びたい。
- (8) 話せばわかってもらえるよ。
- (9) 六時までに起きる。
- (10) どんなに寒かろうと、上着は着ない。
- (11) 駅から十分のところにある。
- (12) こんなことはやりたくないや。

エ ア ウ イ ウ イ ア ウ ウ イ エ イ

ア 格助詞 イ 副助詞 ウ 接続助詞 エ 終助詞

① 格助詞

文節と文節の関係を示します。主として体言につきます。

私の出した手紙。
遠くの山を眺める。
私は泳ぐのが好きだ。
よい悪いのと文句を言う。

人が歩いていて。
食べものがほしい。

本を読む。
家を出発する。
船で川を渡る。

学校に行く。
十一時に寝る。
雪がとけて水になる。
講演を聞きに行く。
車にぶつけられる。

北へ南へ走りまわる。
駅へ行く。

兄と買物に行く。
トラとライオンと象がいる。
四月から高校生となる。
天才とたたえられた。
友達と話す。

九時から会議が始まる。
車から顔を出す。
原油からガソリンを作る。
事故は信号無視から起こった。

太郎は次郎より大きい。
ここより先は進めません。

五時ですべては終了する。
木でおもちやを作る。
筆で字を書く。
かぜで学校を休む。

辞書や参考書で調べる。

主語を示す
連体修飾語を作る
体言の代用||こと
並立

主語を示す
対象

目的、対象
起点(場所)
移動する場所

場所
時間
作用の結果
動作の目的
相手

方向
場所

共同の相手(とともに)
並立
成り行きや結果
引用
相手

起点(時間)
起点(場所)
原料、材料
原因

比較の基準
限界

場所、時
材料
手段、方法
原因、理由

並立

3 次の例の「の」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

※主語を示す

例 父の作る料理は、思ったよりもおいしい。

ウ

ア 雨が降るのを眺める。

イ 大切なのは、親友をみつけることだ。

ウ 花の咲く季節が近づく。

エ 林に風の音が響く。

4 次の例の「に」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

例 ごみが目に入って痛い。 ※場所

イ

ア 太陽は静かに沈んでいく。

イ 毎年ふるさとに帰るはずだ。

ウ 朝六時に起きる。

エ 水が凍って氷になる。

5 次の例の「から」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

例 転校生は東京から来たらしい。 ※起点(場所)

イ

ア ワインはぶどうから作る。

イ 駅から電車で向かいます。

ウ 今日朝から出張です。

エ 睡眠不足から頭痛になった。

6 次の例の「で」と同じ働きをするものを一つ選び、記号で答えなさい。

例 台風が接近してきたせいで、旅行は延期になってしまった。 ※原因

ウ

② 副助詞

さまざまな意味をつけ加えます。いろいろな語句につきます。

か

・誰か私を呼んでいる。
・父か母が来ます。

・不確かさ
・選択

やら

・計画はどうなっているのやら。
・泣くやら怒るやら。

・不確かさ
・並立

とか

・地位とか名誉とかを重んじる。
・お茶とか飲みませんか。

・並立
・例示

くらい

・五分くらい待ってください。
・今年こそがんばるぞ。

・大体の程度
・強調

さえ

・大学生さえ解けない問題。
・子どもにしかわからない。

・他の類推
・否定と呼応する限定

しか

・私だけがとり残された。
・一人に二つずつ配ります。

・限定
・割り当て

ずつ

・お茶でも飲もう。
・小学生でもできる問題。

・例示
・他の類推

でも

・子どもにだってわかる。
・君も困るが僕だって困る。

・他の類推
・強調

だって

・猫などの動物を飼う。
・行くなり帰るなりしなさい。

・例示
・選択

なり

・十分ほど歩くと駅に着く。
・二十人ばかり人が集まる。

・大体の程度
・限定

ほど

・寝てばかりいる。
・今、家に着いたばかりです。

・大体の程度
・動作の直後

ばかり

・彼女が十五歳です。
・見るまでは信じません。

・取り立てる
・限定

は

・犬も猫もいる。
・水も飲みたい。

・並立
・他に同類がある

も

・朝は七時まで寝ている。
・友達にまで笑われた。

・極端な例
・累加

まで

・雨が降り、風まで吹く。

・極端な例
・累加

ア 港は波も穏やかで、船出には絶好の日和だ。
イ 家の軒下で、今年もツバメのひながかえった。
ウ 久しぶりの雨で、庭の草木も生氣を取り戻した。

7 次の文の副助詞に全て——線を引きなさい。

(1) そのとき私は、水しかのどを通らないくらい疲れていた。

(2) 小学生でも解けるような問題ばかりを集めた。

(3) 彼さえいてくれれば、こんなに苦勞することもなかった。

(4) 一人ずつ十分ほどの休憩を取ってください。

(5) 彼だけが来ない理由は、私だって知らない。

8 次の——線部の副助詞と同じ働きをするものを二つ選び、記号で答えなさい。

(1) 誰かここへ来たらしい。 ※不確かさ

ウ

ア 辞書が参考書で調べる。

イ 今年海か山へ行きたい。

ウ 何人か手伝ってくれたから助かった。 ※程度

(2) 一年間で身長が十センチばかり伸びた。

ア

ア あと五分ばかりで開始です。

イ いつも自分ばかりしかられてしまう。

ウ 今、料理ができたばかりです。 ※限度

(3) その花は、冬まで枯れないでしょう。

ウ

ア 妹にまでばかにされてしまった。

イ 寒いと思ったら、やがて、雪まで降りはじめた。

ウ 五時まで駅で待っています。

③ 接続助詞

上の部分と下の部分をつなぎ、その関係を示します。
主として用言や助動詞（活用する単語）につきます。

し	・ 頭もいいし、性格もいい。	・ 並立
たり（だり）	・ 見たり食べたり遊んだり。	・ 並立
から	・ 体調が悪いから休む。	・ 理由
ので	・ うるさいので出窓をしめる。	・ 理由
て（で）	・ 道が悪くて歩けない。 ・ 頭もよくて、性格もいい。 ・ 歩いて学校へ行く。 ・ 外で遊んでいる。	・ 原因、理由 ・ 並立 ・ 手段、方法 ・ 補助の関係を作る
ば	・ 本も読めば、字も書く。 ・ 雨が降れば、かさがいる。	・ 並立 ・ 条件
と	・ 暖かくなると花が咲く。 ・ 雨が降ろうと、僕は行く。	・ 順接 ・ 逆接
が	・ 量も多いが、味もいい。 ・ 昼間は暑いが、夜は寒い。	・ 並立 ・ 逆接
ながら	・ 話しながら歩く。 ・ 知っていないながら教えない。	・ 同時 ・ 逆接
つつ	・ 痛い足をかばいつつ歩く。	・ 同時
なり	・ ひと目見るなり病気がわかった。	・ 同時
けれど	・ 質もいいけれど、値も高い。 ・ 秋になったけれど、暑い。	・ 並立 ・ 逆接
のに	・ 春なのに、雪が降る。	・ 逆接
ても	・ 冬になっても、暖かい。	・ 逆接

9 次の文の接続助詞に（ ）内の数だけ——線を引きなさい。

- 自分を成長させてくれるきっかけはいろいろあるが、そのひとつに本との出会いがある。 (2)
- 電池を替えても動かないので、故障したのだろう。 (2)
- 太陽がとても強く照りつけるので、木陰に入って絵を描いたり本を読んだりしていた。 (5)

10 次の——線部の接続助詞と同じ働きをするものをつ選び、記号で答えなさい。

- 国語もできれば、数学もできる。 ※並立 [イ]
- 春になれば、桜の花が咲く。
イ 文もうまければ、絵もうまい。
ウ 行きたくなければ、行かなくてもよい。
エ ちりも積もれば、山となる。
- 足が痛くて走れない。 ※原因・理由 [ア]
ア 通路が狭くて通れない。
イ 電車に乗って、高校へ通う。
ウ 彼女は背が高く、姿勢がいい。
エ 公園で遊んでいる。
- このボールは小さいが重い。 ※逆接 [ウ]
ア この服は形もいいが、色合いもいい。
イ 小鳥が鳴いている。
ウ 彼は体は大きい弱い。
エ 父は帰るのが遅い。

④ 終助詞

話し手や書き手の気持ちや態度を表します。
文や文節の終わりにつきます。

か	・あの人はだれですか。 ・君はこれでよいのか。 ・君もいっしょに行かないか。 ・とうとう優勝したのか。	・疑問 ・反語 ・勧誘 ・感動
よ	・杉浦さんなら、さつき帰ったよ。 ・もう起きる時間ですよ。 ・みんな、がんばろうよ。	・告知 ・強調 ・勧誘
さ	・彼はきつと来るさ。 ・まあ、それでもいいさ。	・断定 ・軽く言い放つことを表す
ぞ	・これは変な話だぞ。	・強調
とも	・もちろん、行くとも。	・強い言い切り
なあ	・この映画はよかったなあ。	・感動
な	・夕焼けがきれいだな。 ・やっぱりよかったんだな。 ・遅いから早く寝な。 ・廊下を走るな。	・感動 ・軽い断定 ・軽い命令 ・禁止
ね	・君は、それでいいのだね。	・念押し
の	・あなたはもう終わったの。 ・彼はきつと来ると思うの。	・疑問 ・断定
わ	・海の水がとてもきれいだわ。 ・これで終わりましたわ。	・感動 ・やわらかい断定
かしら	・この服似合うかしら。	・疑問
や	・こんな遊びつまらないや。	・軽く言い放つことを表す

11 次の文の終助詞に全て——線を引きなさい。

- (1) みんなが元氣だと幸せだな。本当にうれしくなるよ。
- (2) これは、あなたのペンですか。
- (3) 君もいっしょにやらないか。きつと、楽しいぞ。

12 次の——線部の終助詞の働きをあとの□から選び、記号で答えなさい。

- (1) 出発まであと五分しかないから急ぎな。
- (2) 図書館では、話をするな。
- (3) 外もだいぶ暗くなってきたから、そろそろ帰ろうか。
- (4) あなたは今度の休みに何をしますか。
- (5) いよいよ明日は本番だぞ。

ア 禁止	イ 勧誘	ウ 軽い命令
エ 強調	オ 疑問	

13 次の例の——線部の助詞と同じ働きをするものをつ選び、記号で答えなさい。

- 例 君にこの問題が解けるというのか。※反語 [ウ]
- ア あなたはどこの学校の生徒ですか。
- イ 僕たちといっしょに野球をしないか。
- ウ 時間がないのに、こんなにのんびりしてよいのか。
- エ 次の日曜日に、みんなで公園の掃除をしませんか。

V

類義語・対義語・多義語

学習のねらい

★類義語・対義語・多義語を身につけ、言葉の幅を広げる。

(1) 類義語……似た意味をもつ語のグループ

表す内容は同じですが、語感や意味に微妙な違いがあります。

例 端 || 隅 || 縁 中心 || 中央 || 真ん中
昨年 || 去年 対比 || 比較 気絶 || 卒倒
長所 || 美点 裂く || 破る あける || ひらく

(2) 対義語……意味が反対の関係や対の関係にある二語

どのような観点で対比するかによって、対応する語が変わります。

例 上 || 下 表 || 裏 兄 || 弟
甘口 || 辛口 消極 || 積極 一般 || 特殊
義務 || 権利 貸す || 借りる 高い || 低い 姉 || 妹

(3) 多義語……一つの語で多くの意味や用法をもつ語

多義語の意味は、使われている文脈から判断できます。

例
・さんまのうまい季節。(味がよい)
・歌がうまい。(上手である)
・うまい話に乘せられる。(都合のよい)
・魚をとる。(捕獲する) 新聞をとる。(注文する)
・人の物をとる。(盗む) 宿をとる。(予約する)
・責任をとる。(引き受ける)

たしかめ問題

1 例にならって、次の言葉の類義語、対義語を書きなさい。

例 理由 || 原因 (類義語) 創造 || 模倣 (対義語)

(1) 基礎 基本	(2) 用意 準備
(3) しゃべる 話す	(4) ひねる 回す
(5) 公 私	(6) 難 易
(7) 直接 間接	(8) 興奮 冷静
(9) 栄える 衰える	(10) 温かい 冷たい

2 次の多義語の意味・用法にあてはまるものを次のア〜エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

指を紙できる。
・トランプをきる。
・応募者が百人をきる。
・洗った野菜の水分をきる。

ア 下回る イ 傷つける
ウ 取り除く エ 混ぜ合わせる

ウ ア エ イ



VI 敬語

私たちが話をするときや文章を書くとき、聞き手や読み手などに対して敬う気持ちを表す言葉を敬語といいます。敬語は、相手への心遣いを表す言葉です。敬語を使うことは、堅苦しいことではなく、人と人との間をスムーズに結ぶための大切な心構えです。



丁寧語・尊敬語・謙譲語
詳しい説明(動画)

(1) **丁寧語**……話し手(書き手)が聞き手(読み手)に対して丁寧さを表す敬語。

例

- ・僕は中学生だ。 ↓僕は中学生です。
- ・今から彼女が歌う。 ↓今から彼女が歌います。
- ・まだ時間がある。 ↓まだ時間がございます。

① 助動詞(断定)「だ」を「です」に言い換える。

給食だ。 ↓給食です。

② 助動詞(丁寧)「ます」をつける。

六時に起きる。 ↓六時に起きます。

③ 特別に丁寧な言い方「で」「ございます」を用いる。

これが注文の品よ。 ↓これが注文の品でございます。

美化語

誰に対する敬意でもなく、話し手(書き手)が、自分自身の言葉を美しく表現するものを「美化語」という。

例 お風呂 お箸 お菓子 ご飯 ごちそう

学習の
ねらい

★ 敬語の働きや種類を知り、敬語を自分のものにする。

たしかめ問題

1 線部の言葉を言い換えて、丁寧語を使った表現にしなさい。

(1) それは、私の思い出の写真だ。

です

(2) 吾輩は猫である。

でございます／です

2 次の文を丁寧語を使った表現に直し、全て書きなさい。

(1) 昨日、水族館に行った。

昨日、水族館に行きました。

(2) 彼はそこであの人と出会ったのだろう。

彼はそこであの人と出会ったのでしよう。

(3) 今日のカレーは、激辛だった。

今日のカレーは、激辛でした。

(4) 今、北海道に住んでいる。

今、北海道に住んでいます。

(5) みんなで一緒に歌おう。

みんなで一緒に歌いましょう。

(6) ある日、吹雪で外出できなかった。

ある日、吹雪で外出できませんでした。

(2) **尊敬語**……話題の中の動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語。

例

- ・あの人は、二時に来る。 ↓ あの方は、二時にいらっしゃる。
- ・先生が本を読む。 ↓ 先生が本をお読みになる。
- ・君は、そう思うのだね。 ↓ あなたは、そう思われるのですね。
- ・客から届いた手紙がある。 ↓ お客様から届いたお手紙がございます。

敬意を表す人やその人の動作・様子・所有物などを直接高めます。

① **動詞（敬語動詞）に置き換える。**

- 行く・来る ↓ いらっしゃる・おいでになる
 - いる ↓ いらっしゃる・おいでになる
 - 言う・話す ↓ おっしゃる
 - 見る ↓ ご覧になる
 - 食べる ↓ 召し上がる
 - する ↓ なさる
 - くれる ↓ くださる
- ※到着する ↓ 到着なさる
※呼んでくれる ↓ 呼んでくださる

② **「お（ご・御）になる」をつけ加える。**

- 聞く ↓ お聞きになる 疲れる ↓ お疲れになる
- 思う ↓ お思いになる 利用する ↓ ご利用になる

③ **助動詞（尊敬）「れる・られる」をつける。**

- 思う ↓ 思われる 上達する ↓ 上達される
- 起きる ↓ 起きられる 受ける ↓ 受けられる
- 来る ↓ 来られる

④ **敬意を表す接頭語・接尾語をつける。**

- お宅 御社 御案内 貴校 尊父 (〇〇からの) お手紙・ご意見
- 鈴木様 姉さん 田中君 (※宛名 ↓ 会社 御中)

⑤ **名詞**

- 方（かた） あなた どなた

動詞全般に使える形

たしかめ問題

1 線部の言葉を言い換えて、尊敬語を使った表現にしなさい。

(1) 先生の言うとおりです。

おっしゃる（言われる）

(2) 今日は、家にいますか。

いらっしゃい（おいでになり）

(3) 校長先生は、もう帰りました。

お帰りになり（帰られ）

(4) 社長が来る。

いらっしゃる（おいでになる）（来られる）

(5) 何を食べますか。

召し上がり（お食べになり）（食べられ）ますか

(6) 八木先生が、分かりやすく説明した。

説明なさった（説明された）

2 次の文を正しい敬語を用いた表現に直し、全て書きなさい。

(1) 習字の先生が、私の作品を拝見する。

習字の先生が、私の作品をご覧になる。

(2) 客がディナーをお召し上がりになられる。

お客様がディナーを召し上がる。

(3) 加藤は、家族様とゴルフをしますか。

加藤さんは、ご家族とゴルフをなさいますか。

・「なさる」の連用形「なさり」のイ音便
・「する」の未然形「さ」＋助動詞「れる」の連用形「れ」

(3) 謙譲語……話し手（書き手）自身がへりくだることによって、動作・行為が向かう先に対して敬意を表す敬語。

例

- ・夕食を食べる。 ↓ 夕食をいただく。
- ・今すぐに行きます。 ↓ 今すぐに参加します。
- ・先生に提出物を渡す。 ↓ 先生に提出物をお渡しする。
- ・この本を借ります。 ↓ この本をお借りします。

謙譲語は、自分の所有物や行動、身近なものに対して使われます。

① 動詞（敬語動詞）に置き換える。

- | | | |
|-------|---|-----------|
| 行く・来る | ↓ | 伺う・参る |
| いる | ↓ | おる |
| 言う・話す | ↓ | 申す・申し上げる |
| 見る | ↓ | 拝見する |
| 食べる | ↓ | いただく |
| もらう | ↓ | いただく |
| する | ↓ | いたす |
| 聞く | ↓ | 伺う・承る |
| 知る・思う | ↓ | 存じる |
| やる | ↓ | あげる・差し上げる |

② 「お（ご・御）くする」をつけ加える。

- | | | | |
|-----|---|-------|--------------|
| 持つ | ↓ | お持ちする | 説明する ↓ ご説明する |
| 届ける | ↓ | お届けする | |

③ 謙譲の意を表す接頭語・接尾語をつける。

- | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|---------|-----|-----|
| 粗品 | 拙宅 | 弊社 | 寸志 | 愚見 | （〇〇様への） | お手紙 | ご意見 |
| 私ども | 私め | | | | | | |

身内（自分の家族、同僚）のことを他の人に言う場合には、謙譲語を使います。

- × お父さんは家にいません。 ↓ ○ 父は、家におりません。

たしかめ問題

1 — 線部の言葉を言い換えて、謙譲語を使った表現にしなさい。

(1) 校長先生から、賞状をもらいました。

いただき

(2) 御社の資料を見る。

拝見する

(3) 早速、お宅へ行きます。

伺い（参り）

(4) バスの中で、先生に会いました。

お会いし

(5) お客様の注文を聞く。

承る（伺う）（お聞きする）

(6) ロビーで荷物を預かる。

お預かりする

2 次の文を正しい表現になるように直しなさい。

(1) 弊社のみなさんに、御社の社長の佐藤が、日頃の礼をおっしゃいます。

御社のみなさんに、弊社の社長の佐藤が、日頃のお礼を申し上げます。

(2) おじいさんが、先生の話をお聞きになりたいそうです。

祖父が、先生のお話を伺い（承り）（お聞きし）たいそうです。

(3) お世話になった先輩にプレゼントをやる。

お世話になった先輩にプレゼントをあげる（差し上げる）（お渡しする）。

VII 漢文のきまり

学習のねらい

- ★ 漢文の文章の種類を知る。
- ★ 漢文の読み方を学ぶ。
- ★ 漢詩の種類と形式、特徴を学ぶ。

一 漢文の文章の種類

白文とは

漢字だけで書かれた中国の文章（漢文）の原文を白文といいます。

訓読文とは

白文を日本語として読むことを訓読といいます。訓読するために、白文に訓点（送り仮名や句読点、読む順番を表す返り点）を補った文章のことを訓読文といいます。

〈送り仮名・返り点のきまり〉

① 送り仮名……漢字の右下に、片仮名で書かれたもの。

漢字の送り仮名だけでなく、「て・に・を・は」なども補う。

② 返り点……漢字の左下に添えられた、読む順番を表す記号。

● レ点Ⅱ下の一字から、すぐ上の一字に返って読む。

例 登^②山^①。 ※数字は、返り点に従って読む順序。

● 一・二点Ⅱ二字以上を隔てて、上に返って読む。

例 知^③天^①命^②。

白文

我 読 書

訓読文

我 読^レ書^ヲ。

書き下し文 我書を読む。

たしかめ問題

1 例にならって、読む順番を□の中に書きなさい。

例 1 2 4 3。

(1)	1	3	2	4
(2)	3	2	1	4
(3)	1	4	2	3
(4)	6	5	2	3
	1	2	3	4

2 次の訓読文を書き下し文に直して書きなさい。

(1) 有^レ備^ヘ無^シ憂^ハ。

備へ有れば憂ひ無し。

(2) 百^ハ聞^ハ不^レ如^ニ一^ニ見^ニ。

百聞は一見に如かず。

(3) 不^レ入^ニ虎^ノ穴^ニ、不^レ得^ニ虎^ノ子^ヲ。

虎穴に入らずんば、虎子を得ず。

書き下し文とは

漢文を訓読し、漢字仮名交じりの文章に書き改めたものを書き下し文といいます。

＜書き下し文のきまり＞

① 送り仮名は、歴史的仮名遣いのまま、平仮名に直して書く。

例 思。↓ 思ふ。

② 「不(ず)」「之(の)」「也(なり)」など、助動詞や助詞は平仮名に直して書く。

例 不_レ思。↓ 思はず。

二 漢詩のきまり

漢詩の種類と形式

四句（四行）から成る詩を絶句、八句（八行）から成る詩を律詩といいます。また、一句の字数は五言（五字）のものと、七言（七字）のものがあります。

絶句	
特徴	起承転結の構成法。
例	五言絶句 起 承 転 結 春 眠 不 覚 夜 来 風 雨 花 落 知 多 少 声 鳥 晓
押韻……句の末尾に同じ韻（音の響き）の漢字を置く。	
律詩	
特徴	対句……形や意味の似ている二つの句を並べる表現方法。
例	五言律詩 国 破 山 河 在 城 春 草 木 深 感 時 花 溅 泪 恨 别 鳥 驚 心 烽 火 连 三 月 家 書 抵 万 金 白 頭 搔 更 短 渾 欲 不 勝 簪
対句	

3 A、B、Cの漢詩について、次の問いに答えなさい。

春 眠 不 覚 晓	① A
夜 来 風 雨 声	
处 处 啼 鸟	
花 落 知 多 少	

江 碧 鳥 逾 白	② B
山 青 花 欲 然	
今 春 看 又 過	
何 日 是 归 年	

故 人 西 辞 黄 鹤 楼	③ C
煙 花 三 月 下 揚 州	
孤 帆 遠 影 碧 空 尽	
唯 見 長 江 天 際 流	

(1) AとCの漢詩の形式をそれぞれ漢字四字で書きなさい。

A	五言絶句	C	七言绝句
---	------	---	------

(2) 次の訓読文を書き下し文に直しなさい。

① 春 眠 不_レ覚_レ晓_ヲ
 春眠曉を覚え_ズ

② 煙 花 三 月 下 揚 州_ニ
 煙花三月揚州に下る

(3) Bの第一句と第二句は、形や意味が似た構成になっている。このような表現技法を何というか。漢字二字で書きなさい。

対句



総合問題 ①

1 次の文章の——線部の動詞の活用の種類を書きなさい。

この仮説を検証^①するために、私たちはクマゼミの卵がどれぐらいの低温に耐え^②られるかを実験^③してみた。その結果、なんと氷点下二十一^④度に一日置^⑤いても、大部分が生き延^⑥びることがわかつた。

次に、長く続^⑦く寒さへの耐性を調^⑧べた。観測史上、大阪市の一か月の平均気温が零度を下回^⑨ったことはない。そこで、それより低い氷点下五度に三十日間置^⑩いてみたが、特に影響は見^⑪られなかつた。

(沼田英治「クマゼミ増加の原因を探る」)

① サ行変格活用	② 下一段活用	③ サ行変格活用	④ 五段活用
⑤ 上一段活用	⑥ 五段活用	⑦ 五段活用	⑧ 下一段活用
⑨ 五段活用	⑩ 上一段活用		

2 次の文章の——線部の動詞の活用形を書きなさい。

私は医者^①に、昔のよう^②に走ること^③はできないだろうと言^④われた。足の傷は治^⑤り、半年で固定も取^⑥れるが、腕はいつ治^⑦るか^⑧わからないと言^⑨われた。今でもつ^⑩っている腕が痛むときがある。

① 連体形	② 未然形	③ 未然形	④ 連用形	⑤ 終止形
⑥ 未然形	⑦ 連用形	⑧ 連体形	⑨ 連体形	⑩ 終止形

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝の霧が湖面を覆^①い、幻想的な景色が広^②がった。山々の頂は青空に溶け込^③み、緑の斜面がと^④ても美しく連なる。古い街並みを散策すると、石畳の隙間から咲^⑤く花に目を引^⑥かれた。小さなカフェで、温かいコーヒ^⑦ーを飲^⑧んだ。窓から見^⑨える海は、夕陽に照^⑩らされて輝^⑪いていた。夜になると、星空が広^⑫がり、静^⑬かな空間に包^⑭まれた。美しい風景が、心に深^⑮く刻^⑯まれている。

その記憶は、今も鮮^⑰やかに蘇^⑱る。

(1) 線①～④の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

① 五段活用	② サ行変格活用
③ 下一段活用	④ 五段活用
⑤ 連体形	⑥ 終止形
⑦ 未然形	⑧ 終止形

(2) 線アイの品詞を書きなさい。

(3) 線ウエオの品詞と活用形を書きなさい。

ア	イ
副詞	連体詞
ウ	エ
形容動詞	連用形
オ	
形容動詞	
品詞	活用形



総合問題②

◎品詞分類表（口語）：文法上の性質によって単語を分類した表

単 語									
付 属 語					自 立 語				
活用しない		活用する			活用しない		活用する		
							述語になる(用言)		
							</		



2年

組

番

氏名